

始



田中祐吉著

續法醫學講義

吐鳳堂書店發售

60-220

田中祐吉著



續法醫學講義

吐鳳堂書店發售

大正
6. 6. 22
内交

緒言

本書ハ拙著法醫學講義ノ續篇ニシテ、斯學ニ親密ノ關係ヲ有シ且ツ一般醫家ノ知り置クベキ個人識別ノ大要及ビ近世犯罪學ノ要項ヲ簡潔ニ記述シ、初學者ノ階梯ニ供シタルモノナリ

大正六年六月

著者識

續法醫學講義目次

第一編 個人異同識別論

緒論	一
第一章 指紋及其ノ検査法	四
第一節 指紋總說	四
第二節 指紋ノ種類	六
第三節 指紋ノ價	一
第四節 指紋押捺法	四
第五節 犯罪現場ニ殘存セル指紋ノ證明	一六
第二章 足跡及其ノ検査法	三
第一節 足跡ノ形狀	三
第二節 歩行時ノ足跡ト靜止時ノ足跡	三
第三節 足跡ノ模寫及保存法	四
第四節 足跡ノ比較検査法	五

第五節	足跡ト男女及年齡	二六
第六節	足跡ト歩行狀態	二九
第七節	足跡ト身長	三〇
第三章	人身ノ測定	三三
第四章	撮影及容貌記載	三五
第五章	特別ナル認知徵候	三七
第六章	不明ナル屍體ノ識別	三九
第二編 犯罪學提要		
第一章	犯罪ノ原因	四〇
第二章	犯罪人	四二
第三章	犯罪人ニ對スル處置	四五

續法醫學講義目次終

續法醫學講義

田中祐吉著

第一編 個人異同識別論 Identitätsbestimmung

緒論

諸君、世ノ文明ニ進ミ知識ノ啓發スルニ從テ犯罪ノ數及ビ種類ノ増加シ、且ツ犯罪行為愈、出デ、愈精巧トナリ天網ヲ免レントスル者益、多キヲ加フルニ至ルハ周知ノ事實ナリ、サレバ刑事警察 Kriminalpolizeiノ方面ニ於テモ、犯罪人ノ探偵檢舉及ビ識別等ニ近世科學ノ知識ヲ應用シテ粗漏缺陷ナキヲ期スルニ努メ、犯罪検査ノ方法 Methode der Kriminaluntersuchung、年ヲ逐フト共ニ進歩ヲ告グルニ至レリ、然而這般ノ検査法中、法醫學ニ關係ヲ有シ且ツ



醫家トシテモ知リ置カザルベカラザルモノハ茲ニ講述セントスル個人異同ノ識別法 Methode der Identitätsbestimmung ナリトス

諸君ノ知ラル、如ク、犯罪人或ハ其嫌疑者ハ自己ノ姓名、年齢、職業等ヲ詐リテ警官法官ヲ欺クコト多ク、就中再犯加重ノ刑厄ヲ免レント欲スル再犯以上ノ者ニ於テ特ニ然リトナス、又タ浮浪漢、精神病者、行路行倒人等ニアリテハ屢、其姓名原籍等ヲ明カニスルコト能ハザルガ爲メ、之ガ取調ニ非常ナル手數ト費用トヲ要スルコトアリ、又タ生命保険金ヲ詐取セント企ツル者ノ中ニハ、他人ヲ替玉ニ使ヒテ會社ヲ欺キ、其ノ目的ヲ達スルガ如キモノアリ、此ノ如キ場合ニ際シ、個人ノ異同ヲ容易ニ且ツ的確ニ識別スルニハ、須ラク科學的検査法ニ待タザルベカラズ

夫レ從來個人ヲ識別スル普通ノ方法ハ、容貌、風姿、皮色、毛髮、身長、其他身體上ニ於ケル特徴(文身、癍痕、痣)ノ如キモノヲ主トシ、往古ニ於テハ所謂人相書トテ特ニ顔貌ニ重キヲ措ケリ、然リト雖吾人ガ個人ノ異同ヲ確實ニ識別スルニハ、其身體ニ於ケル諸般ノ徵候ノ中、比較的ニ變化セザル者ニ據ラザルベカラズ、顔貌ノ中、鼻及ビ耳ノ形狀ノ如キハ殆ド一生ヲ通ジテ變化セザルモ

ノナレバ、之ヲ個人識別ニ於ケル一要徵トナスヲ得ンモ、然カモ、疾病、外傷ニヨリテ毀損スルコト多キガ故ニ主要ノ識別點トナスニ足ラズ、而テ毛髮、文身、癍痕、痣等ノ如キモノニ至テハ、個人識別上、決シテ重要ノ價值ヲ有セザルナリ、何トナレバ、毛髮ハ疾病ノ爲メニ脱落或ハ變色シ、文身ノ癍痕、痣等ノ如キモノ爲的ニ消失或ハ變形シ、又タハ新タニ癍痕、文身等ヲ附加スルコト少カラザレバナリ、唯ソレ身長ニ至テハ、丁年以後ハ絶對的ニ變化スルコトナク且ツ同長同幅ノ骨骼ヲ有スルモノ全ク之レ無キガ故ニ個人ヲ識別スルノ標準トナスヲ得ベク、有名ナルベルチヨン Bertillon ノ身體測定法ノ起リタル所以ナリト雖、實際上、身長ヲ測リ又タ身體各部ノ長徑ヲ測ルニ當リテ多少ノ誤差ヲ生ズルヲ免レズ、故ニ此法モ亦タ絶對的確實ナリト云フベカラズ、然レドモ、此ノ中、頭部ノ縱徑、横徑ノ測定ハ、之ヲ身長及ビ他部長徑ノ測定ニ比スレバ甚ダ容易ニシテ且ツ誤差ヲ生ズルコト殆ンド無ク、又タ此ノ部分ハ一生涯其ノ大サヲ變更スルコト無キヲ以テ、個人識別上重要ノ價值ヲ有スルモノト稱シテ可ナリ

然レドモ最モ確實ニシテ且ツ比較的容易ニ識別シ得ベキ個人ノ特徴ハ即

テ指紋 Fingermuster ナリトス、何トナレバ、吾人ノ指尖ニ於ケル紋理ハ、各人ニヨリテ異ナルノミナラズ、亦タ一生ヲ通ジテ變化スルモノニ非レバナリ、諸君ノ知ラル、ガ如ク、吾國ニ在リテハ古來印章ノ代リニ拇印ヲ捺シ、又タ印度ニ於テモ、今日尙ホ證書ニ指印ヲ押捺スルノ風習アリ、然リト雖指紋ヲ科學的ニ研究シ、之ヲ個人ノ識別上ニ應用スルニ至リシハ、近世以來ノ事ニシテ、千八百二十八年獨逸ノ生理學者ブルキンヘ Parkinje ニ其胚芽ヲ發シ、ヘルシエル Herschell ガルトン Galton ヲンリー Henry ニ依リテ花ヲ開キ、獨逸ノ警視總長 ロッシエル Roscher ニ依リテ果ヲ結ベリ、今ヤ此ノ指紋法ハ世界ニ汎ク行ハレ、主トシテ刑事上ノ目的ニ應用セラル、故ニ余ハ先ヅ指紋及ビ其検査法ノ要綱ヲ講述シ、次デ、其ノ補佐トモ云フベキ身長測定法及ビ足跡検査法等ニ及バント欲スルナリ

第一章 指紋及其ノ検査法 Fingermuster und ihre Untersuchungsmethode

第一節 指紋總說

諸君、手掌ヲ開キテ各指ノ指尖ヲ注視スレバ、多數ノ隆線ノ叢ヲナシテ複雑ナル紋理ヲ形成スルヲ見シ、此ノ各個ノ隆線ハ眞皮乳頭ノ排列ヨリ成ルモノナルヲ以テ、之ヲ乳頭線 Papillarien ト稱ス、此ノ隆線ノ形狀ハ、諸君ノ見ラル、ガ如ク種々ナル彎曲ヲナシ、ガルトン Galton ノ如キハ四十一種ノ類型ニ區別シタリシ程ナルモ、之ヲ大別スレバ、弓狀、蹄系狀、及ビ渦狀ノ三種ヲ出デス、即チ隆線ノ指頭ノ一側ヨリ起リテ弓狀ヲ畫キ他ノ反對側ニ終ルモノアリ、或ハ指頭ノ下部ノ一側ヨリ斜メニ上部ニ向テ走リ、ヤガテ屈曲シテ蹄狀ヲ畫キ再ビ原トノ方向ニ復スルモノアリ、或ハ指頭ノ一點ヲ中心トシテ圓形ヲ畫キ相集テ渦狀ヲナスモノアリ、此ノ如ク指頭隆線ノ彎曲ノ狀ニ三種ノ別アルヲ以テ、之ニ從ヒ、指紋ヲ弓狀紋 Bogenmuster 蹄狀紋 Schlingenmuster 及ビ渦狀紋 Wirbelmuster ノ三種ニ區別ス

諸君、指頭ノ紋理ヲ形成セル乳頭線ハ、實ニ個人ニヨリテ異ルノミナラズ、亦タ各指相同ジカラズ、既ニ胎生第六ヶ月ヨリ生ジ、死ニ至ルマデ其ノ形狀及ビ排列ヲ變化スルコト無シ、吾人ノ毛髮、皮色、顔貌等ヲ始メ、手蹟ノ如キモ年齢ノ加ハルト共ニ變化スレドモ、獨リ指頭ノ隆線ノミハ一生涯ヲ通ジテ不


變不易ナリ、是レ指紋ノ個人識別上最モ重要ナル價值ヲ有スル所以ナリトス

指紋ノ検査ハ、今日ノ處、主トシテ刑事上ニ應用セラレ、犯罪人ヲ搜索檢舉スルニ際シテ特ニ賞用セラル、即チ犯罪人ノ犯罪行為中或ハ其前後ニ於テ現場ニ殘シ置キタル指紋ヲ其儘ニ撮映シ、次デ犯人嫌疑者ヲ捕縛シタル時、其者ノ指紋ト對照シテ同一ナルヤ否ヤヲ檢スルニアリ、又タ犯人ノ指紋ハ一之ヲ指紋原簿ニ撮リ永久ニ保存スルコト、ナレルヲ以テ、其ノ犯人ノ出獄後再ビ罪ヲ犯シテ捕ヘラレタル際、假令ヒ其姓名ヲ詐リ或ハ前科ノ無キコトヲ口ニスルトモ、其ノ指紋ト指紋原簿ニ撮ラレタル前ノ指紋トヲ對照スル時ハ容易ニ其詐稱ナルコトヲ看破スルヲ得ベク、又タ犯罪ノ現場ニ殘シ置キタル指紋ト、犯人嫌疑者ノ指紋トノ一致スル時ハ直チニ其ノ犯人タルコトヲ判定シ得ベシ

第二節 指紋ノ種類


指紋ニ三種ノ別アルコトハ前既ニ一言セリ、コ、ニハ更ニ進ンデ此ノ三種

第一圖 弓狀紋



普通弓狀紋

第二圖 蹄狀紋



突起弓狀紋

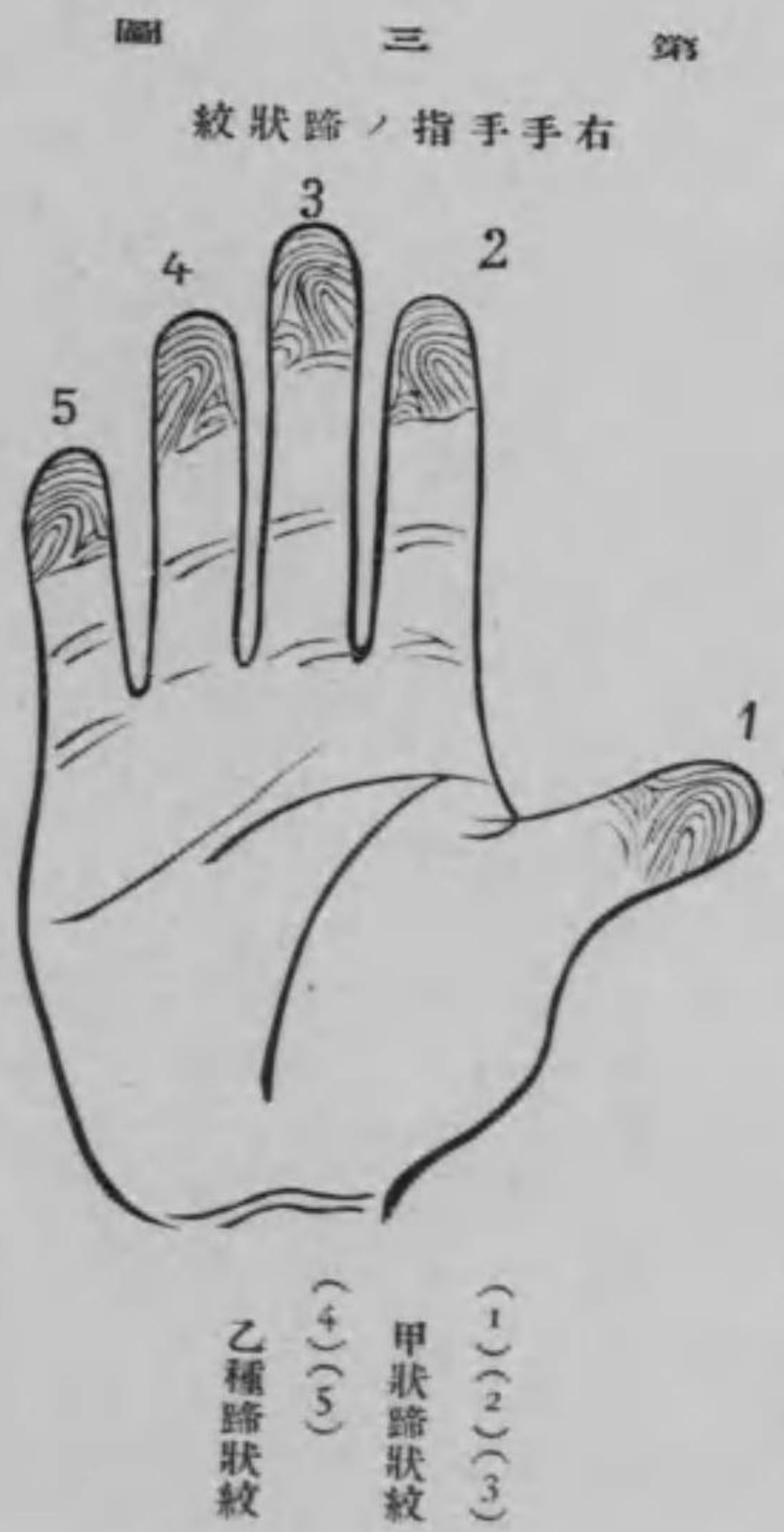
ノ指紋ニ就テ一々其ノ性質ヲ説キ且ツ検査上ニ必要ナル要項ヲ示サントス

(一)弓狀紋 トハ指頭ノ一側ヨリ他側ニ向ヒテ走ル所ノ弓狀線ヨリ成ル指紋ヲ云フ、而シテ其ノ弓線彎曲ノ度特ニ高キモノハ、之レヲ突起弓狀紋ト稱ス

(二)蹄狀紋 トハ指頭下部ノ一側ヨリ起リテ斜メニ上方ニ向ヒ、次デ屈曲シテ再ビ同側ニ歸ル所ノ蹄狀線ヨリ成ル指紋ヲ云フ、之ニ二種ノ別アリ、一ハ蹄線ノ指頭ノ橈骨側(拇指側)ヨリ起リテ同側ニ終ルモノニシテ之ヲ甲種蹄狀紋(原語ハ Radial)

(a) 内端
(b) 外角
(c) 中心蹄線

chlingenmuster ニシテ之ヲ正譯スレバ橈骨蹄狀紋ナレドモ吾國ノ司法省ニ於テ制定セラレタル慣用語ニ從フト云ヒ他ハ蹄線ノ指頭尺骨側(小指側)ヨリ起リテ同側ニ歸ルモノニシテ之レヲ乙種蹄狀紋(原語ハ Uinarschlingenmuster



四種ニ區別ス、而シテ此ノ區別ヲ明ニスルニハ先ヅ豫ジメ、左記ノ事項ヲ知リ置カザルベカラズ
諸君「ルーペ」ヲ以テ蹄狀紋ヲ有スル指頭ヲ見ル時ハ、必ズヤ一側ヨリ起レル蹄線ノ再ビ同側ニ歸ル方向ノ反對側ノ下部ニ於テ一箇ノ三角アルヲ認

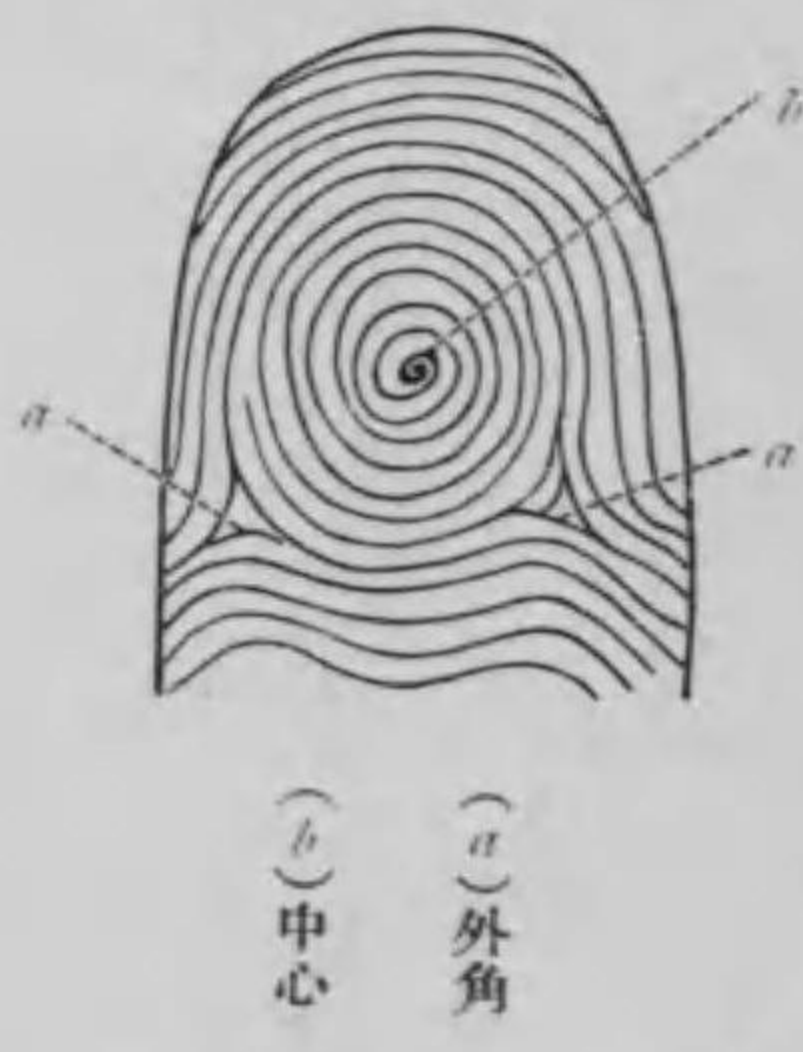
ニシテ、正譯スレバ尺骨蹄狀紋ト云フ
甲種蹄狀紋ハ比較的稀ナルモ、之ニ反シテ乙種蹄狀紋ハ甚ダ多ク、便宜上、更ニ之ヲ

第 四 圖
(種乙)紋狀蹄



ニ外端ト稱ス、蹄狀紋ニハ必ズヤ一箇ノ外角アリ、之ヲ其特徵トナス
數箇乃至數箇以上ノ蹄線中、其ノ最モ内部ニ位スル蹄線ヲ稱シテ中心蹄線ト云ヒ、其ノ頂點ヲ稱シテ内端ト云フ、但シ時トシテ、中心蹄線内ニ於テ更ニ桿狀線ノ存スルコトアリ、然ル時ハ此ノ桿線ノ頂點ヲ内端トス

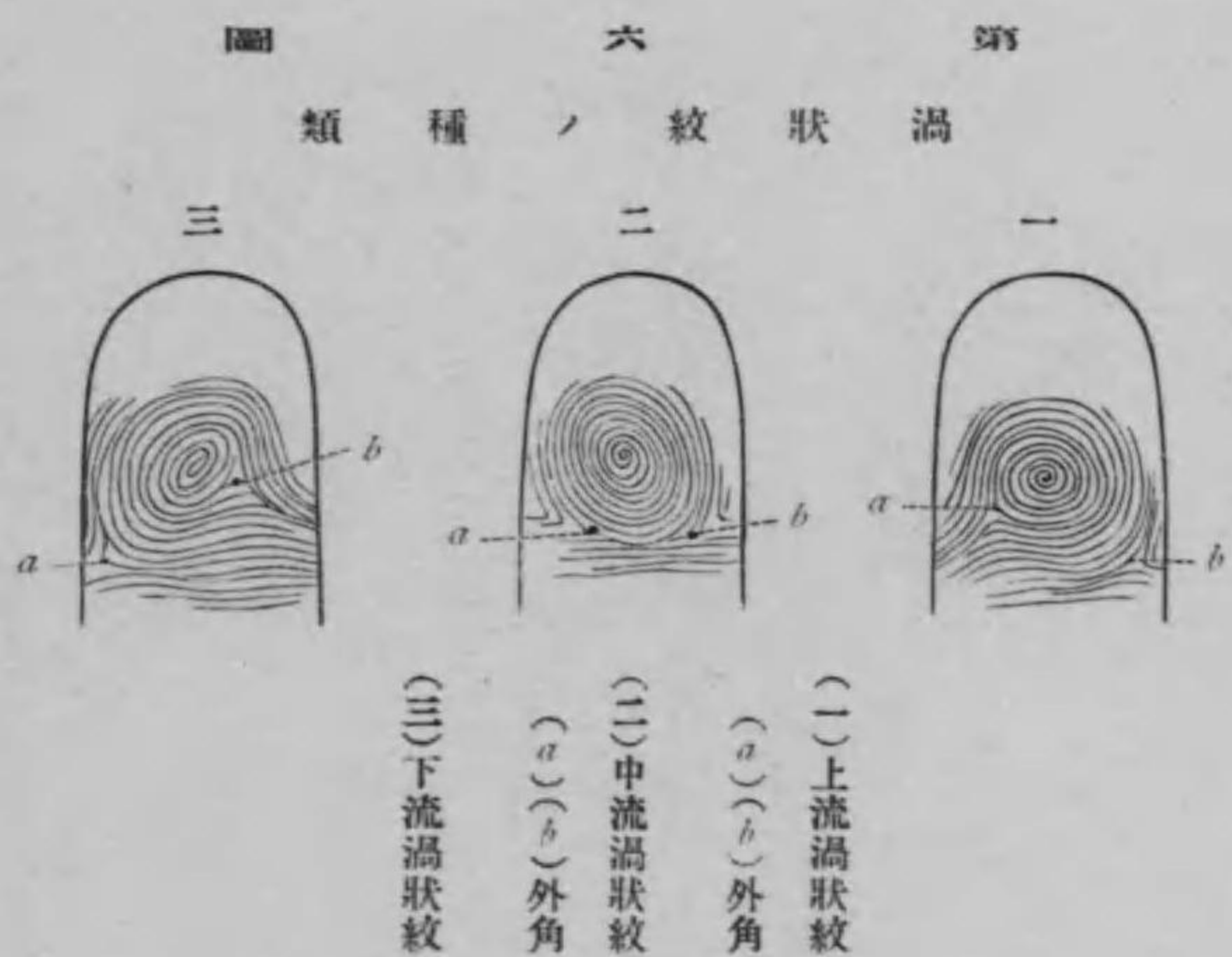
第 五 圖
渦 狀 紋



今内端ヨリ外端ニ向ツテ想像的ニ一直線ヲ劃シテ之ト交叉スル線條ノ數ヲ計算シ、其ノ多寡ニ從ツテ乙種蹄狀紋ヲ四種ニ分ツ、即チ線條ノ數一乃至七ナル時ハ、第一乙種蹄狀紋(余ノ便宜上命名シタルモノ、以下做之、八乃至十

一ナル時ハ第二乙種蹄狀紋、十二乃至十四ナル時ハ第三乙種蹄狀紋、十五以上ナル時ハ第四乙種蹄狀紋ト云フ

(三)渦狀紋 トハ圓形ヲ盡ケル線條ノ求心性ニ集リテ渦狀ヲ呈スル指紋ヲ



云ヒ、其ノ特徴トシテ必ズヤ二箇ノ三角即チ外角ヲ有ス、而シテ渦狀紋ニモ三種ノ別アリ、一ハ左側ニアル外角ガ右側ノ外角ヨリモ三個ノ線條以上上方ニ位スル時ハ、之ヲ上流渦狀紋ト云ヒ、左右外角ノ相隔ツルコト二線マデナル時ハ、之ヲ中流渦狀紋ト云ヒ、左側外角ノ右側外角ヨリモ三線以上下方ニ位スル時ハ、之ヲ下流渦狀紋ト云フ、此ノ三種ヲ區別スル場合ニハ、必ズヤ左側ノ外角ヲ標準基點トシ、之ヨリ上方或ハ下

方ニ在ル線條ノ數ヲ算スルヲ通規トス

第三節 指紋ノ價

指紋ヲ指紋原紙ニ撮リタル後ニハ、索引ノ便ニ供センガ爲メ、各種ノ指紋ニ一定ノ數字ノ價値ヲ附ス、即チ左ノ如シ



弓狀紋		蹄狀紋		渦狀紋		
甲種		乙種		上流	中流	下流
1	2	3	4	7	8	9
外角ヨリ内端ニ至ル線ノ數一乃至七		同八乃至十一		同十二乃至十四		
		同十五以上				

指頭ノ缺損或ハ癩痕等ノ爲メ指紋ヲ撮ルコト能ハザルモノニ對シテハ〇

指紋ノ價

第九圖 指紋原紙

氏名	身分	職業	綽名其他ノ稱呼	男女ノ別	分類番號
					1 4 7 5 3 5 4 9 5 5
原籍	出生地				
住所	生年月日				
(新) 左手					
1. 示指	2. 中指	3. 環指	4. 小指	5. 拇指	
(新) 1	4	7	5	3	
(新) 右手					
6. 示指	7. 中指	8. 環指	9. 小指	10. 拇指	
(新) 5	4	9	5	5	
左手			右手		
大正 年 月 日	=於テ作成		備考		
(新) 大正 年 月 日	=於テ分類				
大正 年 月 日	=於テ検査				

指紋ノ價

一三

第八圖 價ビ及類分・類種ノ紋指

指紋の種類 種類指紋の種類 の分類	弓状紋	蹄状紋					渦状紋			缺
		甲種	乙種				上	中	下	損
			外端ニ至ル 角ヨリ内 ノ數一七	同上 八十一	同上 十二十四	同上 十五以上	流	流	流	
すべき價 各指紋に付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0

ハ外端ト内端トノ間ニ在ル線ノ數十一個ノ乙種蹄状紋(其價4)、環指ハ弓状紋(其價1)、拇指ハ指頭缺損スルヲ以テ0ナル時ハ、右手ノ指紋ノ價ノ數ハ

テ指紋原紙ニ記入シテ索引ノ便ニ供ス、今左手ノ各指ニ於テ、示指ハ外端ト内端トノ間ニ在ル線ノ數六箇ナル乙種蹄状紋(其價3)、中指ハ甲種蹄状紋(其價2)、環指ハ下流渦状紋(其價9)、小指ハ中流渦状紋(其價8) 拇指ハ上流渦状紋(其價7)ナリトセバ、左手指紋ノ價ノ數ハ35000即チ三萬二千九百八十七ナリトス、而シテ右手ニ於テハ示指ハ甲種蹄状紋其價2、中指ハ中流渦状紋(其價4)、小指ハ弓状

(零)ノ記號ヲ與フ
以上ノ如ク各指ノ指紋ニ一定ノ數字價ヲ附シ、之ヲ合シテ一ノ數トナシ以

個人異同識別論

三

2810 即チ一萬八千四百十ナリ

右ノ如クニシテ得タル數字中、左手ノ數ヲ分子、右手ノ數ヲ分母トシテ、

$\frac{2987}{2810}$ トナシ、以テ指紋原紙ノ上欄ノ一部ニ記入ス、是レ即チ指紋番號ナリ、

若シ左手ノ指紋ニシテ甲乙ノ二人同一ナル場合ニハ右手ノ指紋ニヨリテ區別スルヲ得ルガ爲メ、指紋ヲ撮ルニハ必ズヤ左右各指ノ指紋ヲ悉ク撮ラザルベカラズ、而シテ上記ノ如ク左手ノ指紋數ヲ分子トナシ第一ノ標準位ニ置ク所以ノモノハ、人ノ知ルガ如ク、左手ハ右手ノ如ク多ク使用スルコトナキヲ以テ指紋ヲ損害スベキ負傷ニ逢フコト甚ダ少キガ故ナリ、又タ指紋ヲ撮ルニ當リテ先ヅ第一ニ示指ヨリ始ムルハ、示指ハ五指ノ中各種ノ指紋分配ノ比較的ニ善ク平均ヲ保チ、拇指ニ於ケルガ如クニ一種類ノ指紋ヲ多ク偏有スルコト無キヲ以テ、指紋番號數字ノ首位トナスニ適スルガ故ナリ

第四節 指紋押捺法

指紋押捺ニ用ユル染料ハ印刷ニ使用スル黑色「インク」ヲ以テス、先ヅ之ヲ適當ナル平板、例之バ硝子板上ニ平等ニ塗擦シテ薄層トナシ、次デ檢者ハ新鮮

ナル乾布ヲ以テ犯人ノ手ヲ丁寧ニ拭ヒ其ノ全ク乾燥シタル後、右手ノ拇指ト示指トヲ以テ犯人ノ指尖ヲ固定シ、左手ノ拇指ト示指トニテ指ノ第二節ヲ固定シ、以テ其動搖ヲ防ギ、次デ黑色「インク」ヲ塗擦セル平板上ニ導キテ指尖ヲ其上ニ載セ、徐々ニ壓迫セシメテ其ノ下面ノ善ク著色スルヲ待テ之ヲ板上ヨリ離シ、以テ指紋原紙上ニ置き、輕ク壓迫ヲ加ヘテ押捺セシム、而シテ此際ニハ常ニ示指ノ押捺ヨリ始メテ拇指ニ終リ、更ニ同一ノ順序ヲ以テ右手ノ指紋ヲ押捺セシムベシ

押捺終レバ、檢者ハ「ルーペ」ヲ以テ指紋ヲ檢シ、其ノ各箇ノ價ヲ定メテ指紋番號ヲ作製シ、之ヲ指紋原紙ニ記入ス、然レドモ指紋ハ個人ノ職業及ビ生活等ノ異ルニ從ヒ、明瞭不明瞭ノ差アルヲ免レズ、殊ニ日常鋤鋤ヲ執リ或ハ金槌ヲ執リテ勞働スルガ如キモノニ在リテハ其指頭ノ隆線磨滅シ指紋甚ダ不明ナルヲ以テ、暫時日間其業ヲ休止セシメ、然ル後之ヲ撮ルベシ、又タ高老者ニ於テハ皮膚萎縮シ皺襞アルガ爲メ、其指紋頗ル不明ナルコトアリ

第五節 犯罪現場ニ殘存セル指

紋ノ證明

犯人ハ犯罪行為中若クハ其前後ニ於テ、現場ニ在ル物品、例之バ、竈硝子、机卓、戸棚、金庫等ニ觸レ、其ノ指紋ヲ之ニ留ムルコト甚ダ多シ、故ニ警官、法官及ビ法醫ハ、犯罪現場ヲ臨檢スルニ當リ、須ラク注意シテ指紋ヲ發見證明スルニ勉メ、若シ之ヲ發見スル時ハ直チニ之ヲ自然ノ大サニ於テ寫眞板ニ撮映セザルベカラズ、然レドモ犯人ガ其ノ現場ニ殘シ置ク指紋ハ必ズシモ悉ク肉眼ヲ以テ認知シ得ベキモノニ非ズ、之ヲ多クノ實例ニ徵スルモ不完全不明瞭ナルヲ免レズ、サレバ此ノ如キ指紋ヲ發見シテ之ヲ肉眼ニ映ゼシムルコトハ、刑事警察官及ビ法醫ニ必要ノ件タルヲ以テ、今其ノ方法ヲ左ニ講述スベシ

諸君、吾人ノ皮膚ヨリ排泄スル汗液ハ、諸種ノ鹽類ヲ含有ス、故ニ手ノ觸接セシ物體例之バ紙片、樹木、石垣等ノ表面ニハ、汗液ノ固形成分附著シ以テ汗腺開口部ノ痕跡ヲ留ム、而シテ指紋ヲ形成スル多數ノ乳頭線ハ則チ汗腺ノ開口スル所ナルヲ以テ、凡テ手ノ觸レタル物體ニハ必ズヤ其ノ痕跡ヲ留ムルノ理ナリ、サレバ化學的方法ヲ以テ、肉眼ニテハ認ムル能ハザル汗液固形成分ヲ現出セシムル時ハ、之ニ由リテ指紋ノ跡ヲ顯現セシムルヲ得ベシ

手掌手指ノ觸レタル紙片ニハ、肉眼上何等ノ痕跡ヲ認ムル能ハザルモ若シ其紙片ヲ取リテ十%ノ亞硫酸那篤倫溶液(二三滴ノ酒精ヲ加ヘタル)中ニ浸漬スル時ハ、各個ノ乳頭線直チニ現出シテ眼ニ映ズルニ至ル、然レドモ其ノ現ハレタル像ハ恰モ油ヲ以テ描畫シタルガ如ク、充分注意シテ見ルニ非ズンバ之ヲ明カニ見分クルコト能ハズ、從テ寫眞ニ撮映スルコト難シ、他ノ方法ハ、疑ヒアル紙片ヲ沃度蒸氣ニ當ツルニアリ、然ル時ハ紙面ニ附著セル汗液ノ固形成分ハ沃度ト結合シテ稍、明カニ現ハル、モ、憾ラクハ數分後再ビ消失スルヲ

上記ノ検査法ニ比シテ稍、良成績ヲ收メ得ベキモノハ、硝酸銀ヲ以テスル検査法ナリ、諸君、今試ミニ其ノ手指ヲ白紙ニ觸接セシメタルノ後、八%ノ硝酸銀液ヲ其紙片ニ塗布シ日光ニ曝露セヨ、然ル時ハ二三分後ニ至テ乳頭線明カニ現出スベシ、木片ニ於ケル不明ノ指紋ヲ發見證明スルニモ亦タ此検査

法ニヨリテ稍満足ナル成績ヲ收ムルヲ得ベシ
 然レドモ右ノ方法ヨリモ尙ホ一層妙ナルハ、黒インクヲ以テスル検査法ナ
 リ、即チ普通ノ黒インクヲ含マセタル毛筆ヲ以テ、疑アル紙片ノ一端ヨリ他
 端ニ向ヒ徐々ニ水平ノ方向ニ塗布スレバ、二三秒ニシテ指紋ノ現出スルヲ
 見ル、但シ脂肪分多キ手ノ觸レタル紙ナル時ハ、充分ニ「インク」ノ浸ミ込マザ
 ルヲ以テ、此ノ如キ場合ニハ尙ホ一回其部ヲ塗布スルノ要アリ、此ノ検査法
 ヨリモ尙ホ單簡ニシテ且ツ確實ナルハ、黒鉛 (Graphite) ヲ以テスル検査法ナリ
 トス、但シ此法ハ未ダ時日ヲ經過セザル場合ニ用キテ、最モ佳良ノ成績ヲ舉
 グルヲ得ベク、検査スベキ紙片ニ黒鉛粉ヲ塗擦スレバ、直チニ指紋ノ印像歷
 然トシテ現出ス、又タ黒鉛ノ代リニ他ノ有色粉末ヲ用ユルモ可ナリ、例之、
 辰砂若クハ「インヂゴ」ト中性ノ粉末(例之、タルクム)ノ如キモノトヲ一分ト
 十分トノ此例ニテ混和セルモノヲ用ユルノ類ニシテ、殊ニ「インヂゴ」ノ如キ
 ハ、脂肪分ノ附著セル部分ニモ固著スルモノナリ
 然レドモ上記ノ黒鉛及ビ他ノ有色粉末ヲ以テスル検査法ハ、既ニ多クノ月
 日ヲ經過セル可檢物ニ對シテハ最早ヤ效ヲ奏セズ、唯新鮮ナルモノニ於テ

ノミ其目的ヲ達スルニ過ギザルナリ、之ニ反シテ黒インクヲ以テスル検査
 法ハ、陳舊ナル可檢物ニ施シテモ、尙ホ明ラカニ指紋ヲ現出セシメ得ル便ア
 リ

硝子面ニ殘留セル不明ノ指紋ヲ現出セシムルニハ、特ニ注意深キ方法ヲ要
 ス、若シ指紋ガ血液、インク、汗液等ニテ著染セラレ、既ニ肉眼ヲ以テ之ヲ視ル
 ヲ得ベキ時ハ直チニ寫眞ニ撮映シ得ベキモ、然カモ此場合ニハ其ノ硝子面
 ノ背側ヲ照輝シテ撮映セザルベカラズ、又タ硝子面ニ殘リタル痕跡ニ汗液
 ノ滲潤スル時ハ、殆ンド肉眼ヲ以テ之ヲ見ルヲ得ズ、單ニ一瞬間之間ヲ見ル
 ニハ、其硝子面ニ呼吸ヲ吹キ掛クルニテ足レリ、然ル時ハ直チニ現出スルモ、
 又タ速ニ消失ス、若シ其指痕ノ辛フジテ眼ニ見ユル程ナラバ、二三滴ノ依的
 兒ヲ硝子ノ背面ニ點滴シ、次デ呼吸ヲ吹キ掛ケテ指紋ヲ現出セシメ、瞬時ノ
 間ニ寫眞ニ撮映スベシ

若シ硝子面ニ殘存スル指紋ニシテ、上記ノ如ク呼吸ヲ吹キ掛クルモ尙ホ明
 ラカニ現出セザル時ハ、先ヅ之ヲ肉眼ニ映ゼシムル様ニシ、次デ之ヲ染色ス
 ルヲ要ス、其方法ニハ種々アリ、第一ノ法ハ、硝子ヲ硝子鐘内ニ入レ、數時間、オ

スミウム、酸結晶ノ作用ヲ受ケシムルニアリ、硝子面ニ附著セル脂肪ハ之ニヨリテ黒染スルガ故ニ、從テ指痕モ現出ス、第二ノ法ハ、八%ノ硝酸銀溶液ヲ硝子面ニ作用セシメ、指痕ノ著明ニ現出シテ其ノ全ク乾燥スルヤ否ヤ、水ヲ以テ洗滌スルニアリ、第三ノ法ハ、フクシン酒精溶液上ニ硝子ヲ浮遊セシメ、之ヲ熱灼シテ後、硝子面上ニ附著セル過剰ノ色素ヲ水洗スルニアリ、然ル時ハ指痕ハ赤染シテ現ハル、第四ノ法ハ、「スダグ」三ノ酒精溶液ヲ以テシ、脂肪分ヲ赤染シテ指痕ヲ現出セシムル法ナリ

ベルチヨンハ、硝子、紙片、金屬等ニ印セル不明ノ指紋ヲ肉眼ニ映ゼシムル一法トシテ、先ヅ白粉 Bleiweißpulver ヲ疑ハシキ部分ニ塗擦シ次デ其過剰ヲ除去シテ後、二三分間、硫化安母尼亞ノ蒸氣ニ接觸セシメタリ、然ル時ハ指痕ノ印セル部分ハ黒染スルガ故ニ、之ヲ明視スルヲ得ベシ

肉眼ヲ以テ稍見ルヲ得ベキ指紋ニシテ、暗黒色ノ物體ニ印セラレタル場合ニハ、其ノ部分ニ白色ノ粉末、例之バ鉛粉ヲ撒布シ、其ノ過剰ヲ靜カニ除去シタル後、之ヲ撮影スベク、又タ白色ノ物體ニ印セラレタル指紋ナレバ、黒色或ハ他ノ有色ノ粉末ヲ撒布シテ撮影スベシ

第二章 足跡及ビ其ノ検査法 *Fussspuren* und ihre Untersuchungsmethode

第一節 足跡ノ形状

諸君、犯罪現場ニ足跡ヲ發見スルコトハ、一般ニ人ノ信ズルヨリモ遙カニ多キモノナリ、固ヨリ其足跡ヲ以テ直チニ犯人ノ足跡ト見做スコト能ハザルモ、之レニ由リテ犯人ヲ檢舉スルノ手掛リヲ得、又タ犯人ノ異同ヲ識別スルヲ得ルノ便宜アレバ、上記ノ指紋ニ於ケルグ如ク、現場ニ於テ足跡ヲ發見シタル時ハ、須ラク之レヲ保存シテ後日ノ參考品證據料ニ殘シ置カザルベカラズ

抑モ健康ナル人間ノ地上ニ留ムル足跡ハ、大體ニ於テ下記ノ如キ形状ヲ呈ス、即チ足跡ハ前後ノ二部及ビ之ヲ結合スル中間部トニ分レ、前部ハ足蹠ノ前部ノ形ニ應ジテ廣ク、後部ハ足踵ノ形ニ一致シテ卵圓形ヲ呈シ、一ノ狹隘ナル條索狀ノ中間部ニヨリテ結合ス、而シテ此中間部ハ足蹠ノ外縁即チ小

趾側ニ一致セル部ニシテ、其ノ形狀ハ個人ノ異ルニ從テ種々ナリ、而シテ前部ノ頂端ニハ五箇ノ足趾ニ一致スル印跡ノ駢列スルヲ見ル、卵圓形ノ後部ハ各人ニヨリテ其形狀ニ著ルシキ差異ナキモ、之ニ反シテ廣濶ナル前部及



ビ狹隘ナル中間部ハ個人ノ異ルニ從ヒテ著明ナル不同アリ、又タ中間部ノ外縁ハ之ヲ内縁ニ比スルニ著明ナルヲ常トス、蓋シ歩行ノ際ニハ足ノ内側ヨリモ外側ノ方ニ多ク體重ヲ支ヘシムルニ由ルナリ



以上ハ足跡ノ形狀ニ關スル概要ナルガ、之ヲ檢スルニ當リテ先ヅ第一

ニ鑑別セザルベカラザルコトハ、果シテ歩行時ノ足跡ナルヤ或ハ靜止時ノ足跡ナルヤノ點ニアリ、今之ガ鑑別ニ必要ナル要項ヲ左ニ示サン

第二節 歩行時ノ足跡ト靜止時ノ足跡

足跡ハ同一ノ人ニ於テモ歩行時ト靜止時トニヨリテ其大小ヲ異ニス、成人ニ於ケル靜止足跡ノ長サハ二十六仙迷(平均)ナルモ、歩行足跡ハ之レヨリモ少シク長クシテ二十七・三仙迷(平均)ヲ算ス、即チ同一ノ足跡ニテモ歩行時ハ靜止時ニ於ケルヨリモ稍、長クナル

又タ歩行ノ際ニハ跣趾ノ印跡特ニ大トナリ、靜止時ニテハ四・二仙迷ノ長サモ、歩行時ニハ五・五仙迷ニマデ長クナリ、一・三仙迷ヲ増ス、其ノ理由ハ跣趾ノ最前端ハ靜止時ニハ地面ニ觸レザルモ、歩行時ニハ地面ニ觸レ、其跡ノ地上ニ印セラレテ、ソレダケ靜止時ヨリモ足跡ノ長サヲ増スニ由ル

足跡ノ横徑ハ靜止時ニテハ八・三仙迷(平均)ナルモ、歩行時ニハ之ヨリモ小ニシテ、七・七仙迷ナリ

是ニ由テ之ヲ觀レバ、歩行時ニハ足跡ノ長クナルト共ニ狹クナリ、靜止時ニハ短クナルト共ニ廣クナルコトヲ知ルベシ、而シテ跣趾及ビ他ノ足跡ノ跡モ歩行時ト靜止時トニヨリテ多少ノ差異アリ、靜止時ニテハ足跡ノ跡ハ圓形ヲ呈スルモ、歩行時ニハ少シク長味ヲ帶ブヲ常トス、又タ歩行者ノ重物ヲ負擔セル時ハ、足跡ハ其横徑ヲ増ス、例之バ二十五基瓦ノ重物ヲ負擔セル者

ノ歩行足跡ノ横徑ハ平均八・七仙迷ニ達スルガ如シ

第三節 足跡ノ摸寫及ビ保存法

足跡ノ明瞭ニ印セル場合ニハ、之ヲ模寫スルコト固ヨリ容易ナリ、其ノ最モ單簡ナル方法ハ充分透明ナル薄葉ノ白紙ヲ足跡ノ上ニ擴ゲ、以テ其ノ輪廓ヲ寫シ取ルニアリ、若シ薄葉ノ白紙ナキ時ハ、成ルベキ薄キ白紙ニ油或ハ、テルベンチン油ヲ注ギテ之ヲ透明トナシ、足跡ヲ寫シ取ルベシ、又タ他ノ方法トシテハ先ヅ充分大キク截開セル厚紙ヲ以テ足跡ヲ取り圍ミ、其ノ厚紙ノ上ニ硝子板ヲ載置シテ足跡ノ全形輪廓ヲ寫取スベシ、然レドモ足跡ヲ正確ニ撮寫保存スルニハ、フローランズ Florence 氏ノ法ヲ用ユ、即チ先ヅ綿ヲ以テ鉛粉ヲ一ノ硝子板上ニ塗擦シ、乳白色ノ層トナシタル後、前記ノ如ク之ヲ厚紙上ニ置き、尖銳ノ物體ヲ物ヲ足跡ノ境界線ヲ模寫スレバ、其線條ノ部分ノミハ鉛粉ノ剝脱シ硝子面ヲ露出スルガ故ニ、硝子板ノ下ニ黑色ノ紙ヲ置キ之ヲ透見スル時ハ、足跡ノ模寫面ハ黑色トナリテ見ユ、次デ硝子板ヲ硫化加爾叟謨溶液内ニ投ズレバ、鉛粉ハ硫化鉛ニ變化シ黑色トナルヲ以テ、寸分

違ハザル足跡ノ鑄型トナリ、更ニ之レヲ漆ニテ固メテ永久ニ保存スルヲ得ベシ

然レドモ最モ確實ナルハ足跡ヲ寫眞ニ撮影スルニアリ、其方法ハ寫眞器ヲ鉛直ニ下方ニ向ケ、乾板ヲシテ地上ノ足跡ニ平行セシメ以テ撮影スベシ、若シ之ニ反シテ寫眞器ヲ斜メニ地上ニ向ハシメテ撮影スル時ハ、實物ト異ナレル影像ヲ生ズルヲ以テ須ラク注意スベシ

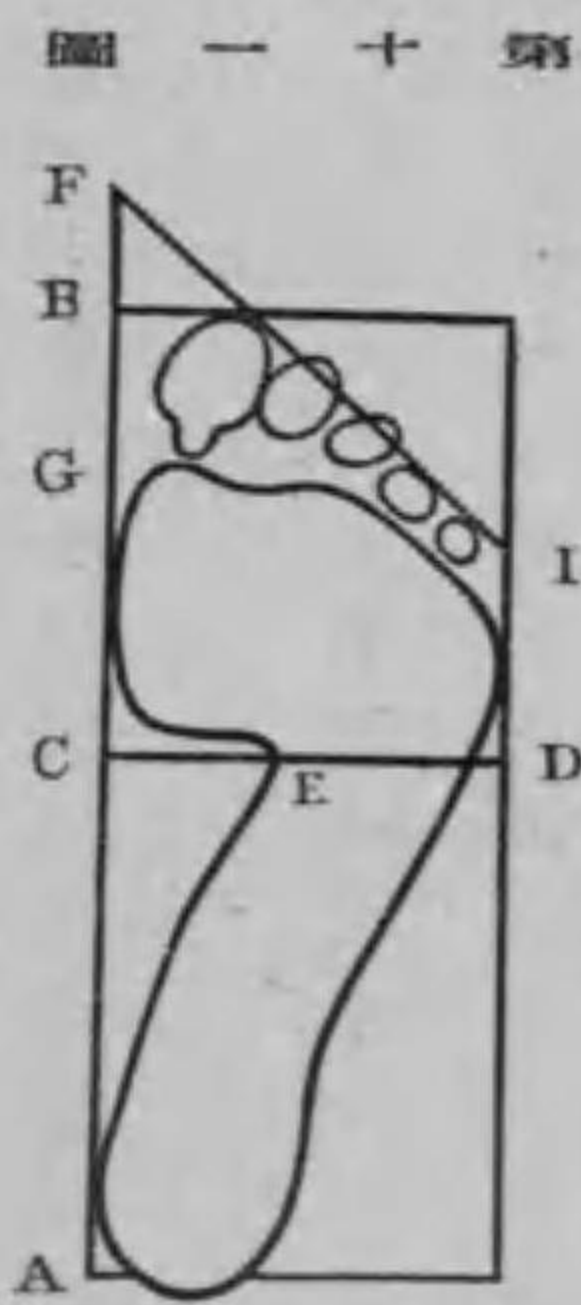
以上ノ方法ニヨリテ足跡ノ寫像ヲ得タル時ハ、之ヲ犯人嫌疑者ノ足跡ト比較對照シテ其異同ヲ檢ス、其ノ検査法左ノ如シ

第四節 足跡ノ比較検査法

犯罪現場ニ發見セラレタル足跡ト嫌疑者ノ足跡トヲ相比較シテ果シテ犯人ナルカ否カヲ識別スルニ當リテハ、周到ノ注意ヲ要シ、單ニ兩者ヲ對照スルノミニテハ決シテ充分ト云フベカラズ、必ズヤ嫌疑者ノ足ヨリ一箇乃至數箇ノ模型ヲ調製シテ、之ヲ現場ニテ發見シタル足跡ト比較スベク、而シテ模型ヲ作ルノ方法ニハ種々アレドモ、其中確實ニシテ且ツ便利ナルモノヲ

舉グレバ左ノ如シ

現場ニ發見セラレタル足跡ノ血液ニ滲ミタル足跡ニ由來セルモノナル時ハ、嫌疑者ノ足跡ニ豫ジメ纖維素ヲ脱却セル血液ヲ塗布シ、然後白紙ヲ敷キタル板上ヲ步行セシメテ其足跡ヲ之ニ印セシメ、又タ現場ニ於ケル足跡ガ、汗或ハ塵埃等ニテ汚染セラレタル足ニ由來セル場合ニハ、嫌疑者ヲシテ豫ジメ煤煙ニテ黒染セル紙上ヲ步行セシムルカ或ハ水、グリチエリン、及ビ赤色ノ亞尼林色素ノ混液ヲ作リテ非透過性布片ヲ其中ニ浸シ、之ヲ牀面ノ上ニ擴ゲテ嫌疑者ニ蹈マセ、其ノ足跡ヲバ亞尼林色素ニ染マシメテ白紙上ヲ步行セシム、此ノ如クニシテ嫌疑者ノ足跡ヲ撮リタルノ後、始メテ現場ニ發見シタル足跡トヲ比較スベシ

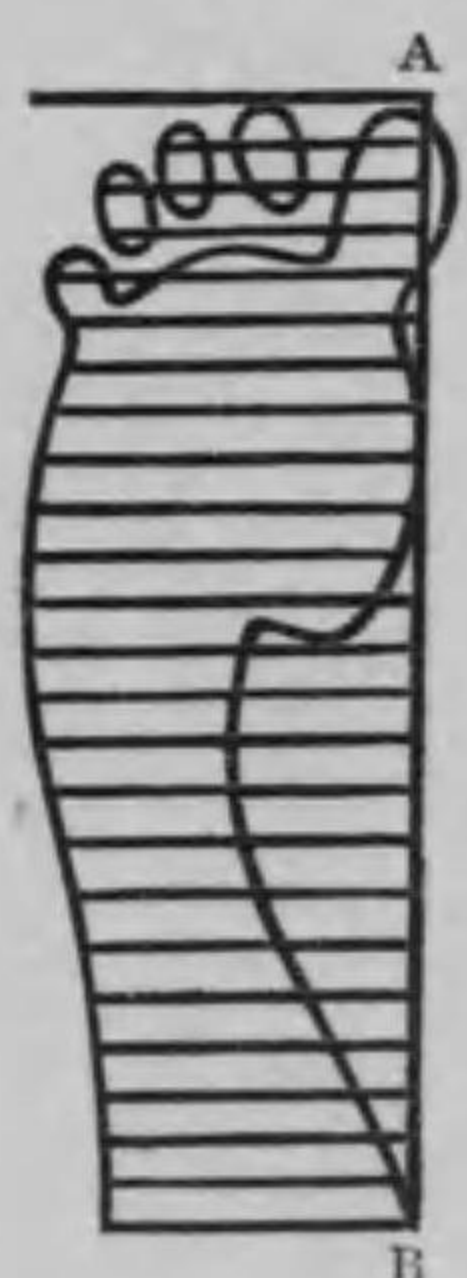


先ヅ兩者ノ大小ヲ比較スルニハ、各足跡ノ周圍及ビ其内外ニ數個ノ直線ヲ劃スルコト上圖ノ如クスベシ、ABハ足ノ全長、AGハ跣趾ヲ除キタル足ノ長サニシテ、此ノAG線ハ步行若クハ靜止時ニ於テ撮リタル足跡ヲ検査スルニ當

リ最モ必要ナルモノナリ、蓋シ此線ハ步行時ニ於テモ又タ靜止時ニ於テモ殆ド其長サヲ變化スルコト無キモ、之ニ反シテ跣趾ノ跡ハ既ニ記述セシガ如ク、步行時ニハ多少延長スルヲ以テナリ、CDハ足ノ横徑ヲ示シ、CEハ足蹠ノ内彎入ニシテ、個人ニヨリテ甚シキ差異アルモノナリ、今ABトIヨリ起リテ跣趾ト小趾トヲ連結スル斜線トヲ各延長スレバ、此二線ハFニ於テ相會シBFIナル角度ヲ形成スベシ、此角ノ大小ハ實ニ跣趾ノ長短ニ關スルヲ以テ、甚ダ特殊ノモノナリトス、此ノ如クニシテ現場ニ發見セシ足跡ト嫌疑者ノ足跡トヲ比較シテ其異同ヲ檢スベシ

然レドモ兩足跡ノ全ク相一致スルコトアリトモ、直チニ兩者ヲ同一ト見做スベカラズ、既ニ記シタルガ如ク、同一ノ足跡ニテモ步行時ト靜止時トハ其長徑及ビ横徑共ニ多少ノ差ヲ生ズルヲ以テナリ、故ニ大小ノ異レル兩足跡モ、時トシテハ其實同一ノ人間ノ足ニ由來スルコトアリ、又タ靜止時ニ於テモ其位置ノ多少異ルニ從テ、足跡ノ大サニ些少ノ差ヲ來タスコトアリ、即チ其長徑ニ於テハ九乃至二十三密迷、横徑ニ於テハ〇乃至十八密迷、足蹠ノ内彎入ニ於テハ〇乃至五密迷ノ差異ヲ生ズルコトアリ、故ニ足跡ノ大小ノ他

第二十圖



ノ小面積ニ區分シ、兩足跡ニ就テ精密ニ各面積ノ同一部分ノ相一致スルヤ否ヤヲ檢スルニアリ、然ル時ハ最初氣附カザリシ些細ナル形態上ノ特性モ著ルシク現ハレテ、容易ニ走リシコトヲ推定シ得ベシ

ニ尙ホ其形狀ヲモ比較スルノ要アリ、其方法ハ上圖ノ如クAB線ヲ任意ニ同一ノ長サニ分割シ、之ニ直角ヲナシテ横線ヲ引キ、以テ足跡ヲ數多

第五節 足跡ト男女及ビ年齡

足跡ニヨリテ男女及ビ年齡ヲ略ボ推定スルヲ得、今其一斑ヲ語レバ、女子ノ足跡ハ男子ノヨリモ小ニシテ且ツ其歩行距離短ク、ツレットー Tourretes ノ觀察ニ依レバ、女子ノ歩行距離ハ五十仙迷、男子ノハ六十仙迷乃至六十五仙迷ヲ平均トスト云フ、又々二十五歳ヨリ四十五歳迄ノ男子ノ歩行距離ハ、老人ノニ比スレバ稍、長キヲ常トス

今普通ニ道ヲ行ク者ノ各歩行距離ヲ一貫シテ假リニ一線ヲ劃スレバ、一ノ

長キ直線ヲ成ス、之ヲ歩行線 Gehlinie ト云ヒ、各足ノ踵跡ハ此ノ直線ノ上ニ前後シテ竝列ス、然レドモ實際ニ於テハ各ノ踵跡ハ此直線ノ左右兩側ニ位シ且ツ多少之ヨリ隔ツヲ常トス (Gebrochene Gehlinie) 身體ノ肥滿セル人、妊婦、時トシテ老人ニ於テ特ニ顯著ナリ

第六節 足跡ト歩行狀態

地上ニ殘レル足跡ニヨリテ其人ノ歩行狀態ノ如何、即チ徐步セシカ、走リシカ、或ハ疾驅セシカラ推定シ得ベシ、徐步ノ場合ニハ其足跡ノ全體明ラカニ地上ニ印象セラレ、走行ノ場合ニハ唯ダ足ノ前部ノ印跡稍、著明ナルノミニシテ踵部ノ跡ヲ缺キ、之ニ反シテ走行ノ速力ヲ早クシテ且ツ大股ニ走リシ場合ニハ、踵部ノ跡甚ダ深く、足跡ノ前端ヲ印セズ、是レ蓋シ中等度ノ走行ニ在リテハ足ノ前部ヲ以テ體重ヲ支へ、疾驅ノ際ニハ、足跡ノ全部ヲ地上ニ觸ル、モ、主トシテ踵部ニ力ヲ込メテ走ルヲ以テナリ、其他、一ノ足ノ踵ト他ノ足トノ踵トノ間ノ距離、即チ歩行距離 Schrittabstand ハ走行ノ場合ニハ大トナリ、九十仙迷以上ヲ超ユル時ハ、其ノ人ノ足跡ノ跡ハ歩行線ニ對シテ一ノ角

但シ茲ニ注意スベキハ、前既ニ記述セルガ如ク、靜止時ト歩行時トニハ其足跡ノ長徑ニ多少ノ差ヲ來タシ、歩行時ノ足跡ハ常態ニ比シテ少シク長キヲ以テ、其ノ長クナリタルダケノ數ヲ其足長ヨリ減ゼザルベカラズ

第三章 人身ノ測定 *Messungen des menschlichen Körpers (Anthropometrie)*

諸君、人身ノ測定ハ元來美術上ノ目的及ビ徵兵検査ノ目的ニ用ヒラレタル者ナルモ、ケトレー *Quelet* ニ至リテ始メテ之ヲ人類學的研究上ニ應用シ、次デ千八百七十九年ニ至リテベルチヨン *Bertillon* ハ犯人ノ個人識別上ニ活用シ、所謂ベルチヨン式 *Bertillonssystem* (「ベルチヨナーシ」 *Bertillonage*) ナルモノヲ完成シテ、世界ニ普及セシメタリ

夫レ吾人ノ身體ハ丁年期ニ至リテ其發育ヲ中止シ、爾來毫モ變更スルコトナシ、又タ人ハ各自相異ル骨格ヲ有シ、同一ノ骨格ヲ有スル者決シテ之レ無キヲ以テ、丁年以後ノ人間ニ對シ、其ノ身長及ビ身體各部分ノ長ヲ測定シ置ク時ハ、其後再ビ之ヲ測定スルコトニ由リテ同一人ナリヤ否ヤヲ容易ニ識

別スルヲ得ベシ、是レ即チ人身測定法ノ世ニ起リタル所以ナリトス
ベルチヨン式ニ依リテ測定スベキ身體ノ各部ヲ擧グレバ左ノ如シ

- 一、身長 *Körperlänge*
- 二、兩手披伸徑 *Armspannweite*
(兩手ヲ水平位置ニ伸展シ、一手ノ中指ノ尖端ヨリ他手ノ中指ノ尖端ニ至ル迄ノ長徑)
- 三、坐高徑 *Sitzhöhe*
(上身ノ長サニシテ頭部ノ頂ヨリ腰部マデノ長サ)
- 四、頭蓋縱徑 *Kopflänge*
(鼻根ヨリ後頭突起マデノ長サ)
- 五、頭蓋橫徑 *Kopfbreite*
(頭蓋ノ左側ヨリ右側ニ至ル最長徑)
- 六、顴骨橫徑 *Jochbeinbreite*
- 七、耳長(右耳) *Ohrlänge*
- 八、左足ノ長

九、左中指ノ長

十、左小指ノ長

十一、左前膊ノ長

上記ノ測定ハ固ヨリ綿密ナル注意ノ下ニ嚴重ニ施行セザルベカラズ、然レドモ絶對的ニ精密ナルコトハ到底期スベキニ非ズ、一人ノ測定者ガ一人ノ被檢者ヲ十回反復シテ精密ニ測定スルモ、毎回二三密迷ノ差異アルコトハ周知ノ事實ナリ、故ニ身體測定法ニヨリテ犯人ノ異同ヲ識別スルニ際シ、測定原紙ニ記載シタル所ト相對照スル場合ニハ、其間ニ些細ノ差異アルベキコトヲ豫ジメ知リ置カザルベカラズ、殊ニ身長ニ於テ然リトス
然レドモ身體測定ノ中、頭蓋縱徑及ビ横徑ノ測定ハ、之ヲ身長及ビ他ノ部分ノ測定ニ比スレバ頗ル確實ニシテ且ツ有效ナリ何トナレバ頭蓋測定ノ際ニハ被檢者ガ故意ニ測定ヲ誤ラシムルガ如キ猾手段ヲ講ズルコト能ハズ、又タ其測定法モ容易ニシテ誤差ヲ來スコト最モ少キノ他、此ノ部分ハ一生ヲ通ジテ毫モ其ノ大サヲ變更スルコト無ク、身長ガ種々ナル事情原因ニヨリテ多少變更スルト同日ノ論ニ非ルヲ以テナリ

サテ以上ノ方法ニヨリテ身體ノ各部ヲ測定シタル後ハ之ヲ測定原紙ニ記入シ、各原紙ハ測定數ノ大小長短ニ從ツテ順序ヲ立テ、整正ニ分數、排列スルヲ要ス

第四章 撮影及ビ容貌記載 Photographieren und Portrait parte

人心ノ異ルヤ其面ノ如ク、全然同一ノ容貌ヲ有スル者ハ世上殆ンド無シ、是レ古來個人ヲ識別スルニ當リ主トシテ容貌ニ重キヲ置キ、人相書ヲ配布シテ犯人ヲ検査セシメタル所以ナリ、然レドモ人ノ容貌ハ其一生ヲ通ジテ一定不變ノモノニ非ズ、或ハ疾病ニヨリ或ハ境遇ノ順逆ニヨリ或ハ爾他種々ノ事情ニヨリテ著ルシク其ノ容貌ニ變化ヲ來タシ、父子朋友ノ親ト雖、尙ホ且ツ同一人ナルヤ否ヤヲ識別スルニ苦シムコトアリ、故ニ容貌ノ異同ニ依リテ個人ヲ識別セントスルガ如キハ決シテ確實ナルモノニ非ズ、況ンヤ寫眞ニヨリテ之ヲ決セントスルガ如キニ於テヲヤ、夫レ然リ、然リト雖、容貌ノ中ニモ亦タ變更セザルモノ無キニ非ズ、就中、鼻ト耳トハ終生ヲ通ジテ其形

態ヲ變化スルコトナク、且ツ何人モ直チニ目視シ得ベキモノナレバ、個人識別ノ要徴ノ一トナスニ足ル、其他上顎、下顎及ビ額骨ノ如キモ、變更シ難キモノナリ、故ニ此等ノ部分ニ對シテ精密ニ注意ヲ拂フ時ハ、個人ノ異同ヲ判別シ得ルコト必ズシモ難事ニ非ルベシ、サレバ犯人ノ寫真ヲ撮影スルニ際シテハ、特ニ終生變更セザル部分ヲ判然明瞭ニ撮影スルヲ必要トス

寫真ヲ撮ルニ當リテハ、必ズヤ正面向キノモノト、側面向キノ二者ヲ撮ルヲ要ス、正面ノ撮影ニ於テハ、特ニ鼻、額骨、下顎、耳等ノ特徴ヲ見ルヲ得ベク、側面ノ撮影ニ於テハ、特ニ耳、鼻、前額、下顎等ノ特徴ヲ見ルヲ得ベシ、而シテ是等ノ顔面部分ノ中、最モ特徴ヲ有シ、個人ノ異同ト共ニ其状態ヲ異ニスルコト最モ著ルシキモノハ、即チ耳ニシテ、鼻之ニ次グ、故ニ此ノ二者ハ個人識別上決シテ忽緒ニ附スベカラザルナリ

實物及ビ其寫真ニ就テ其ノ容貌風姿ハ勿論、特徴ヲ有スル顔面ノ部分等ヲ客觀的ニ精密ニ記載シ、以テ個人ノ異同ヲ立トコロニ識別セシムルモノヲ容貌記載法 *Portrait parlé* ト稱ス、就中、耳及ビ鼻ノ形狀ハ各人ニヨリテ相異ルヲ以テ、特ニ精細ニ記述スルヲ要ス

第五章

特別ナル認知徵候 *Besondere**Kennzeichen*

諸君、人ニシテ其身體ニ特徴ヲ有セザル者無シ、固ヨリ本人自身ハ之ニ氣附カズトモ、他人ノ眼ニハ能ク之ヲ認知スルヲ得ルナリ、黒子、痣、癍痕、文身等ノ如キハ即チ其ノ一ニシテ、個人ノ異同ト共ニ其大小、形狀、色澤、及ビ位置等モ亦タ種々ナリ、又タ職業、生活法等ニヨリテハ、身體ノ一部或ハ數部分ニ機質的變化ヲ來タスヲ以テ亦タ特徴ノ中ニ算ズルヲ得ベシ、例之バ、平素鋤鋤ヲ手ニシテ勞働スル者ノ手掌ニ硬結ヲ生ジ、爪甲ノ粗剛ニシテ剝脫シ、或ハ鍛工ノ手及ビ前時ニハ鐵粉ノ散亂ニヨリテ數多ノ癍痕ヲ生ズルガ如シ、其他、指趾ノ畸形、脊椎彎曲、禿頭、斜視、兔唇、鞍鼻等ノ如キ、病理的變化モ亦タ特徴中ニ算スベシ、然リト雖、上記ノ如キ特徴ハ、人爲的ニ消失シ或ハ變形シ得ベキ者多キヲ以テ固ヨリ確實ナル識別上ノ標準トナスコト能ハズ、唯參考ノ資ニ供スルヲ得ルノミ

文身ノ如キハ、主トシテ博徒、俠客及ビ其他下層社會ノモノニ多キヲ以テ、之

レニヨリテ本人ノ身分ヲ推定スルノ一助ニ供シ得ベキモ、而モ文身ナルモノハ必ズシモ一生涯ヲ通ジテ永存スルモノニ非ズ、往々自然ニ消失スルコトアリ(カスベル Casper ユタン Hutin タルヂユ Tardieu 等ノ實驗)就中溶解性色素ヲ以テシタル者ニ在リテハ甚ダ速ニ消失ス、又タ非溶解性色素ヲ以テシタル文身モ亦往々淋巴管ヨリ吸收セラレテ徐々ニ消失スルコトアリ、但シ此ノ如キ例ニ在リテハ文身部近傍ノ淋巴腺ニ於テ色素ノ沈著スルヲ見ル、其他、人爲的ニ腐蝕性物質ヲ文身ヲ除去シ、其後ニ癩痕ノミヲ留ムルコトアリ

個人ノ身體ニ於ケル諸般ノ特徴ヲ原紙ニ記スルニハ、其ノ種類例之バ疣、癩痕、文身、畸形等)形状、大小、方向及ビ位置等ヲ精記スベシ

第六章 不明ナル屍體ノ識別

大都會ニ於テハ屢、姓名、原籍等ノ全然不明ナル行路行倒人及ビ被害者ヲ發見スルコト少カラズ、若シ幸ヒニシテ其ノ指紋、身體測定數及ビ特徴ニ符合スル者ヲ原紙簿ニ發見スルヲ得バ、直チニ其何者タルヤヲ識別シ得ベシ

ト雖、此ノ如キ事ハ甚ダ稀有ニ屬スルヲ以テ所轄警察ニ於テハ其屍體及ビ其ノ所持品(時計、「ステッキ」、靴等ノ如キ)等ヲ精密ニ撮影シテ、多數ノ寫眞ヲ製シ、各地ノ警察ニ送附シテ探索用ニ供シ、又タ屍體ニ制腐的處置ヲ施シテ一定時間屍體展覽場 Leichenschauhaus ニ置キ、公衆ニ廣示シテ、其何者タルヤヲ探求セザルベカラズ

屍體ヲ撮影スルニ當リテハ、必ズヤ先ヅ其容貌ヲ生前ニ於ケルガ如キ者ニ改メザルベカラズ、世俗ニモ熟知セラル、ガ如ク、死顔ト生顔トハ大ニ相違スルヲ以テ、死顔ヲ其儘ニ撮影スル時ハ、個人ノ異同ヲ識別スル目的ヲ達スルコト能ハザレバナリ、然ラバ如何ナル方法ニヨリテ容貌ヲ生前ニ於ケル状態ノ如クニ變ゼシムルカト云フニ、其方法種々アリト雖、實際ニ適スルモノヲ舉グレバ、先ヅ格魯兒石灰溶液ヲ以テ顔面ヲ再三反復洗滌シ、次デ格魯兒那篤留膜溶液ニ抱水、クロラートヲ混和セル溶液中ニ浸スニアリ、此ノ如キ方法ヲ稱シテ屍體化粧 Leichenfärbung ト云フ、然ル時ハ全ク活機ヲ失ヒタル死顔モ、生ケルガ如キ相貌ヲ呈スルニ至ル、或ハ又タ滑石ヲ以テ顔面ヲ摩擦シ、口唇ヲ「カルミン」ニテ染メ、眼球内ニハ「クリチエリン」ヲ注入シ若クハ自然

色ノ義眼ヲ當ツルモ亦タ能ク相貌ヲ生前ノ如クタラシムルヲ得ベシ
 死體ノ全部若クハ一部ヲ可ナリ永ク保存スルニハ拔爾撒謨ヲ其内ニ封入
 スルヲ善シトスレドモ最モ單簡ニシテ且ツ費用廉ナルハ「リゾフホルム」溶
 液ヲ注入シ且ツ其中ニ浸漬スルニアリ(キアレラ Chiarrella 氏法)

第二編 犯罪學提要 Grundzüge der

Kriminologie

諸君近世ニ至テ刑法學 Strafrechtliche Wissenschaft ノ範圍ハ著ルシク擴張シ、單
 ニ刑法ノ研究ノミヲ以テ満足セズ、更ニ進ンデ犯罪、犯罪人及ビ之ニ對スル
 豫防法ヲ科學上ヨリ研究スルニ至レリ、是レ即チ犯罪學 Kriminologie ナルモ
 ノニシテ、刑法學ノ一分科タリ、此學ハ法醫學ト多少親密ノ關係アルヲ以テ
 今コ、ニ其ノ大要ヲ講ゼントス

第一章 犯罪ノ原因

諸君、犯罪 Verbrechen ノ由テ起ル原因ハ之ヲ二種ニ大別スルヲ得ベシ、一ハ外
 因、他ハ内因ナリ、外因トハ社會的、地理的境遇 Soziales, geographisches Milieu 等ノ
 如キ人間ノ社會的生活ニ影響ヲ及ボス周圍ノ環境ヲ云ヒ、内因トハ個人ノ
 身體及ビ精神の要素ニシテ一ニ之レヲ稱シテ個人的若クハ生物學的原因
 Individuelle oder biologische Ursachen トイフ

抑モ吾人ヲ圍擁スル地理的環境ガ個人ノ動作及ビ生活ニ對シテ顯著ナル影響感化ヲ及ボスコトハ近年以來精細ニ研究セラレ、其結果トシテ、社會的地理學 Soziale Geographic ナル特殊ノ一科學ノ新タニ興起スルニ至レリ、而シテ地理的環境ト稱スルモノハ、土地、空氣、山川、海洋氣候等ノ謂ヒニシテ、此等ノ要素ハ、イヅレモ人類ノ社會的生活ニ對シテ多少ノ影響ヲ及ボシ、延ヒテ又タ犯罪ノ上ニモ一定ノ關係ヲ有ス、其中ニモ氣溫ノ昇降ガ個人ノ身體及ビ精神ノ興奮性ヲ左右スルコトハ較著ナル事實ニシテ、即チ氣溫高キ時ハ身心ノ興奮性亢盛シ、之ニ反シテ氣溫低キ時ハ、興奮性低降ス、夏時ニ於テ殺人犯、強盜、強姦、一揆等ノ如キ犯罪ノ増加シ、又タ詩人文豪ノ創作力、女子ノ妊孕性ノ大トナリ、冬季ニ於テハ其ノ減少スルモノ、蓋シ這般ノ要約アルニ由ラズンバ非ズ、夫レ身體ノ成長發育ト氣溫トノ間ニ一定ノ關係アルコトハ動物生理學上明カナル所、又タ一定ノ植物ノ繁殖ト氣溫トノ間ニ關係アルコトハ植物學ノ示ス所、サレバ人間ニ於ケル動作及ビ生活モ亦一般生物ニ於ケルト同ジク、氣象的要約ニ支配セラル、コトハ理ノ看易キ所トス、然ラバ即チ犯罪モ亦タ氣象ノ影響ヲ受クルコト豈怪ムニ足ランヤ、然レドモ亦

タ他ノ一面ニ於テハ地理的環境ト人間ノ經濟的生活トノ間ニ密接ノ關係アルコトヲ知ラザルベカラズ、土地ノ性質ガ、文明ノ進運、人口ノ疎密、貧富等ニ著ルシキ影響ヲ及ボシ、從ツテ犯罪ノ數或ハ其性質ニ相違ヲ來スコトハ周知ノ事實タリ

犯罪ノ外因中、最も重要ナルモノハ實ニ社會的要素ニシテ、就中生活ノ困難ヲ以テ其第一トナス、而シテ之ヨリ諸般ノ犯罪ノ起ルハ、實ニ貧窮其者ニ基クノミナラズ、亦タ榮養不足ノ結果トシテ、身體及ビ精神ノ變性ヲ來タシ道徳的感覺ノ減乏スルニ由ル、殊ニ下層社會ニ於テハ、其境遇上身心ヲ過度ニ使用スルガ爲メ過勞ヲ來シテ、益、其榮養ヲ損シ、身體ノ變性ヲ招致スル傾向愈、大ナリトス、貧窮ガ犯罪ノ大創造者タル所以ノモノハ、畢竟變性者ノ大創造者タルニ由ルナリ、*Das Elend ist der grosse Schöpfer von Verbrechen, weil es der grosse Schöpfer der Furtachen ist.*

一國ノ經濟的狀態ノ變化ガ其國民ノ犯罪ニ對シテ、必須ノ社會的原因トナルコトハ統計上明白ナル所ニシテ、國民ノ經濟生活ト犯罪生活トヲ相比較スレバ、其間ニ密接ノ關係アルヲ認ムベシ、例之バ農夫、勞働者等ノ各年百基

瓦ノ穀物ヲ購求スルニ要スベキ勞働時間ノ數ト、犯罪ノ數トヲ對照センカ、必ズヤ兩者ノ増減ノ相一致スルヲ發見セン、國民ノ經濟的要約ノ改善セラ、ル、時ハ一般ニ犯罪ハ減少シ、之ニ反シテ經濟生活ノ困難トナル時ハ所刑者ノ平均數増進ス

又タ職業モ犯罪トノ間ニ一定ノ關係ヲ有ス、蓋シ各種ノ職業ハ、各自特殊ノ道德的雰圍氣ヲ有スルガ故ニ、職業ノ異ナルニ從ヒ、犯罪ノ性質モ亦タ異ナル所少カラザルナリ

學校教育ノ普及、國民知識ノ進歩ハ必ズシモ犯罪ヲ減ズルモノニ非ズ、一ノ學校ヲ開設セヨ、然ラバーノ監獄ヲ閉鎖スルニ至ラン、*Ihr werdet eine Schule und ihr werdet ein Gefängnis schliessen* ト云ヘル語ハ畢竟教育ノ社會的價值ヲ買ヒ被リタル空想ニ過ギザルナリ、文明ノ進ミ知識ノ増スニ從テ犯罪ノ數ヲ増シ且ツ其ノ巧微トナルコトハ、周知ノ事實ニ非ズヤ、然リト雖、教育ガ犯罪ノ性狀ヲ變化シ且ツ之ヲ緩和タラシムルコトハ掩フベカラズ、教育ヲ受ケタル者ノ犯罪ガ、無教育者ノ犯罪ト自カラ異リテ其型式ヲ異ニスルコトハ、恰モ貧民ト富人トノ犯罪ノ異ル所アルニ同ジ

犯罪ノ内因即チ個人的原因トハ個人ノ身體及ビ精神の要素ヲ指ス、夫レ吾人ノ行動ハ身心ト密接ノ關係ヲ有シ、殊ニ理性感情ニ支配セラ、ル、コト甚ダ大ナリ、然レドモ身體ト精神トノ兩者ハ全ク其ノ歩武ヲ一ニスルモノナレバ、犯罪ノ個人的原因ヲ研究スルニハ必ズヤ身體及ビ精神ノ兩面ヨリ觀察セザルベカラズ、而シテ之ヲ究ムルニハ人類學、實驗的心理學、病理學及ビ精神病學ニ據ルベク、此等ノ學科ハ犯罪人ノ個性ヲ研究スルニ當リテ其柱石トナルモノナリ

身體的方面ヨリ犯人ヲ研究スルニハ全身ノ健康狀態、身體ノ發育狀態、就中、頭蓋、顔面及ビ身體全部ニ於ケル特殊ノ徵候ニ就テ精細ニ觀察スルヲ要ス、而シテ犯人ノ身體ニ於テ屢認ムル所ノ異常、所謂變質徵候 *Sog. Intartungszeichen* トハ病理的遺傳、身體發育ノ障礙、或ハ局所臟器ノ榮養障礙等ニ因スル形質ノ變化ヲ總稱スルモノナリ

犯人ノ心理的研究ハ、主トシテ實驗心理學上ヨリ、知覺運動ノ機能、智力、感情、就中道德的的感覺等ヲ検査シ、又タ一方ニ於テハ身心ノ遺傳、家系等ヲ究ムルニアリ

上記ノ方法ニ依リテ犯人ノ身體及ビ精神ニ特殊ノ異常變化ヲ發見シ、之ガ其犯罪行為ノ要約タルコトヲ認メタル時ハ、茲ニ於テカ始メテ犯人ノ個性 Individualität des Verbrechers ヲ確定スルヲ得ベシ

第一章 犯罪人 Verbrecher

夫レ犯罪ハ道德法律ヲ蔑視シ社會ノ秩序ヲ破壊スル反社會的現象ナリ、固ヨリ輕重大小ノ差異アリト雖、其ノ質ニ至テハ即チ一ナリ、而シテ其ノ甚シキモノニ至テハ禮儀道德ノ何タルヲ解セズ、自己アルヲ知リテ他人アルヲ知ラズ、慘酷非道ノ行動ヲ恣ニシテ悔ヒズ、暴慢ニシテ懶惰慘忍ニシテ貪慾殆ンド蠻人ニ異ナラザルガ如キモノアリ、此ノ如ク普通ノ人間ト全ク其ノ性狀ヲ異ニスルハ、必ズヤ其ノ精神生活ニ障礙缺陷アリテ犯罪的傾向ノ素地ヲナスニ非ルヤヲ想ハシム、換言スレバ生來精神ニ異常アリテ私慾ノ抑制不能トナリ、愛他心萎靡シ、道德的感覚ノ消失シテ其ノ個人ニ犯罪的傾向ヲ作ル特性ノ存スルニ由ルニ非ルナキヲ得ンヤ、是レ古來ヨリ犯罪人ヲ以テ普通人ト同視セズ、全ク之レト相違セル者ナリトスル學說ノ出ヅル所以

ナリ、羅馬太古ノ名醫ガレレン Galen ハ夙ニ犯罪ヲ以テ其ノ個人ノ天性ニ出ヅルモノトナシ、之レヲ罰スルノ益ナキコトヲ唱ヘタリシコトアリシガ、近世ニ至リテデスバン Despine ハ犯人ノ心理ヲ深ク研究シ、常習犯人ノ特徴トシテ、怠惰輕卒ナルコト、身體及ビ精神上ノ感覺ノ減弱セルコトヲ擧ゲ、ブリッチャード Pritchard モ常習犯人ハ先天性ニ道德的觀念ノ缺乏スルコトヲ論ジテ悖德狂 Moral insanity ヲ主張シ、モツレー Maudsley モ亦タ犯人ヲ道德的狂者トナシ、精神病者ト犯人トノ間ニ所謂中間者ト認ムベキ者アルヲ擧ゲタリ

然レドモ犯人ノ身體的及ビ精神的異常缺陷即チ變質徵候ヲ研究シ、犯人ヲ以テ主トシテ先天性ノ者トナシ、且ツ各種ノ犯人ニハ特殊ノ犯罪定型 (Typus) 有スルコトヲ論ジ、刑事人類學 (Kriminalanthropologie) ヲ開キシハ實ニロンブロンロー Lombroso ナリキ、時維レ千八百七十六年
ロンブロンローガ始メテ犯人ノ頭蓋骨ニ於テ發見セシ特殊ノ解剖的徵候ハ實ニ後頭骨内面ニ於ケル中央頭蓋窩ナリキ、諸君ノ知ラル、ガ如ク、普通ノ人間ノ後頭骨内面ニハ唯十字形ノ線ヲ見ルニ過ギザルモ、獸類ニ在リテハ

前後ニ走ル隆起ニ脚ニ分レ、其間ニ一ノ窩ヲ擁ス、中央頭蓋窩ナルモノ即チ之レナリ、然ルニロンブローソ一ハ、犯人ノ後頭骨ニ就テ之ヲ發見セシカバ、更ニ進ンデ精細ナル検査ヲ施シ、其結果、犯人ノ頭蓋骨ニハ種々ノ變微アルコトヲ認ムルニ至レリ、即チ前頭骨ハ削殺シ、額骨突起高ク聳エ、眼窩過大ニシテ眉弓強ク隆起シ、前頭骨内面ノ骨樑、顛顚骨線モ高ク現出シ、後頭骨ノ外面ニ横隆起現ハレ、上顎骨大ニシテ且ツ高ク、頭蓋縫合ノ一部或ハ全部癒合シ、頭蓋ノ左右不率アリ、又タ腦髓ニ於テモ其表面ニ鳥距溝ノ現ハレ、普通ノ人腦ニ無キ猿猴溝ヲ有シ、小腦ノ發育大ニシテ大腦ノ後面ニ露出シ、又タ精神的徵候ニ於テハ、道德的的感覺ニ缺如シ、虛榮心強ク又タ模倣ヲ好ミ、痛覺鈍ニシテ文身ヲナス者多シ、而シテ此等ノ徵候ノ中、前頭ノ額骨突起ノ著ルシク隆起シ、眉弓強ク發育シテ下顎大キク、且ツ中央頭蓋窩ノ存在スル等ノ如キ頭蓋骨ノ變化ハ、慥カニ獸類乃至原始蠻人ニ酷似セルコトヲ證明スルモノナリトシ、太古時代ニ於ケル蠻人及ビ獸類ノ標徵ノ再ビ現出シテ此種ノ人間ヲ生ズルニ至リタルモノト見做シ、犯人ノ本性ハ畢竟原始人類又タハ獸類ノ形質ニ再現シタルモノニシテ(先祖戻リ Atavismus) 現代ノ社會的生活ニ

不相應不適當ナル行爲ヲナスモノナリト斷言セリ

然レドモ、ロンブローソ一ノ先祖戻リ、即チ隔世遺傳ノ說ノミニ依リテ説明スベカラザル身體上ノ特徵亦タ少カラズ、例之バ顔面ノ左右不齊、齒列ノ不整、耳翼ノ變形等ノ如キモノ是レナリ、仍テロンブローソ一ハ此ノ如キ形態上ノ變化ニ變質 Degeneration ナル名稱ヲ與ヘ、以テ隔世遺傳ニ因ル特徵的變化ト區別セリ、而シテ此ノ變質徵候ニハ、病理上ノ遺傳例之バ父祖ノ精神病、微毒、酒精中等等ニヨリテ身體上ノ畸形、精神上ノ異常ヲ來タセルモノアリ、或ハ後天性ノ原因、例之バ酒類濫用、過度ノ勞働、微毒、不攝生ノ生活等ニヨリテ感覺遲鈍、精神薄弱ヲ來セルモノアリ、而シテ這般ノ變質徵候ノ中、病理的遺傳ニ基ヅクモノハ顔面ノ左右不齊、齒列ノ不正、耳翼畸形、指趾過剩等ノ如キモノニシテ、此等ノ變常ハ時トシテ健康人ニ認ムルコトアレドモ、狂者及ビ犯人ニ多ク存在スト云ヘリ

是レニ由リテ之ヲ觀レバ、犯人ハ、隔世遺傳ニ基ク異常或ハ父祖ノ病理的遺傳ニ因スル變質徵候ヲ有スルモノニシテ、普通人トハ全ク異レルモノト謂ハザルベカラズ、是レロンブローソ一ガ犯罪ノ本質的原因ヲ以テ犯人自身ノ

個性ニ因スルモノトナシ、先天性ニ犯罪の個性ノ存在スルコトヲ主張スル所以ニシテ、其個性ハ解剖學、生理學、病理學、心理學等ヨリ説明シ得ベキ特徴ニ基クモノトナスモノ、實ニ其ノ刑事人類學ノ根本的思想ナリトス

ロンブローゾーノ區別ニ依レバ、犯人ニハ左ノ如キ種類アリ

(一)先天性犯人 *Geborene Verbrecher*

前記ノ如ク獸類乃至原始蠻人ノ性狀形質ノ再現シタルモノニシテ、頭蓋骨ヲ始メ、身體ノ諸部ニ形態的異常ヲ有シ、精神的方面ニ於テハ毫モ道德的感覚ナク、暴戾慘忍ニシテ食慾性慾ヲ恣ニスルガ如キモノナリ

(二)道德狂 *Moralische Irre*

(三)癲癇性犯人 *Epileptische Verbrecher*

(四)感情的犯人 *Leidenschaftsverbrecher*

(五)機會的犯人 *Gelegheitsverbrecher*

此中感情的犯人ハ先天性癲癇性犯人及ビ道德狂ニ反シテ、身體ハ調和シ精神モ美シト雖、而カモ感情強クシテ非常ニ感動シ易ク、此點ニ於テハ癲癇ニ於ケルガ如ク、過度ノ衝動、俄然タル暴動ヲ來タシ、又タ屢、健忘ニ陥ルコトア

リ、而シテ機會的犯人ニ至テハ、自カラ進ンデ犯罪ノ機會ヲ求ムルコト無ク、却テ機會ニ誘惑セラレ罪ヲ犯スモノニシテ、眞ノ意味ニ於テノ犯罪人ニ非ズ、偽性犯人 *Pseudokriminellen* ト稱スベキモノナリ

以上説クガ如ク、ロンブローゾーハ、犯罪人ニハ、身體及ビ精神上ニ普通人ト異レル特徴的變常所謂犯罪定型ヲ有スルコトヲ主張シ、之ニ依リテ犯人ヲ決定シ得ベキコトヲ論決セリ、然レドモ同氏ノ犯罪定型説ニ對シテハ反對者少カラズ、蓋シロンブローゾーハ、監獄ニ拘禁セラレタル犯人ニ就テ、調査研究シタルニ留マリ、通常ノ人間全體ニ就テ、變質的徵候ノ有無ヲ檢シタルコト無キヲ以テナリ、且ツ夫レ正常ト變質トノ間ニハ幾多ノ階段アリテ、正常ニ近キ者モアレバ變質ニ近キ者モアリ容易ニ其間ニ境界ヲ劃スルコト能ハズ、前頭ノ削殺、顴骨及ビ下顎ノ突出、齒列ノ不正、耳翼ノ變形、感覺ノ遲鈍、意志薄弱等ハ、ロ氏ノ認メテ犯人固有ノ變常トナシ、犯罪定型ト見做ス所ナレドモ、是レ畢竟程度上ノ差異ニシテ、如何ナル程度ヨリ犯罪定型ト認ムベキカハ、到底確實ニ決定スルコト能ハズ、學生ノ試験答案ニ點數ヲ附スルガ如クニ、何點以上ノ犯罪定型ナリト定ムルヲ得ルヤ、是レ實ニロ氏ノ説ニ免ル、

コト能ハザル缺點ナリトス然レドモ、生來犯罪ノ傾向アル人間ノ存スルコトハ實際上非定スル能ハザル所ナリ、吾人ハ信ズ、ロ氏ノ犯罪定型說ハ容易ニ首肯スルコト能ハザレドモ、而カモ其ノ犯罪生得說ニ至テハ之ヲ是認スベシト、蓋シロ氏ノ舉ゲタル身體及ビ精神的ノ變常ハ、之ヲ以テ悉ク犯人ノ先天的標徴ト云フコト能ハズ、從テ形質ノ異常ト犯罪トノ間ニ何等ノ法則的關係ヲ立ツルコト能ハザレドモ、之ヲ世ノ事實ニ徵スルニ、感情的、機會的犯人又タハ癲癇、ヒステリーノ如キ精神病の神經病者ニ非ズシテ、早クヨリ犯罪ノ傾向ヲ呈スル特殊ノ人間ノ存スルコトハ、毫モ疑フベカラズ、サレバロ氏ノ立論ノ根據ニ對シテハ反對スルヲ得レドモ、其ノ所說ハ是認セザルヲ得ザルナリ

凡テ犯人ナルモノハ其ノ生來性ノモノト然ラザル者トヲ間ハズ、精神的ニ何等カノ缺陷弱點ノ在ルベキコトハ容易ニ肯定シ得ベキ所ニシテ、即チ其知力ガ概シテ普通人ヨリモ低ク、境遇ニ左右セラレ易キガ爲メ罪惡ヲ犯スニ至ルモノナルベシク、*Knacht*ノ論ゼシガ如ク、精神病の人間ガ元來ヨリ抵抗力弱クシテ興奮感動シ易ク、從テ犯罪的行爲ヲ演ズルニ至ルコト

ハ多數ノ事實ノ證明スル所ニシテ、醫學者中ニハ、犯人ヲ以テ神經精神病の人間ト見做ス者少カラズ、サレバロンブローノ唱ヘシガ如キ特殊ノ犯罪の定型ナル者ノ存セズトモ、生來精神的障得ヲ有スル者ガ罪惡ヲ犯シ易キ傾向アルコトハ固ヨリ爭フベカラザル所ニシテ、從テ個人的素因ト犯罪行爲トノ間ニ一定ノ關係アルコトモ理ノ見易キ所ナリトス、而シテ體質ノ異常、所謂變質徵候ヲ有スル者ハ其精神的能力ニ於テモ缺陷障得アルガ爲メニ種々ノ犯罪行爲ヲ演ズルニ至ルナリ

此ノ如ク論ジ來レバ、犯罪ヲ明カニスルニハ、必ズヤ先ヅ犯人其者ヲ科學的ニ研究セザルベカラズ、之ヲ少シク詳言スレバ、犯人ノ身體及ビ精神ノ特性ヲ研究シ、其ノ罪ヲ犯スニ至ル迄ノ條件及ビ經過ヲ明ニセザルベカラズ、是レ刑事人類學ノ世ニ興リタル所以ナリ

然レドモ犯罪ハ個人的内因ニ基クノ他、亦タ個人ノ生存スル社會自體ノ構成、風俗、生活法、氣象、氣候等、凡テ人間ノ動作ニ向テ影響ヲ及ボス外界ノ要約ニモ左右セラル、コトハ明カナリ、是レロンブローノ犯罪個性論ニ對シテ犯罪境遇論ノ唱ヘラル、所以ナリ、蓋シ犯罪ハ單純ナル生物的現象ニ非

ズシテ、生物的及ビ社會的現象ナルコトハ、彼ノ自殺等ト其ノ轍ヲ一ニスルモノナルガ故ニ、單ニ犯人ノ個性ヲ研究スルニ留マラズ、尙ホ進ンデ個人ヲ圍擁スル外界ノ要素、殊ニ社會的及ビ地理的ノ要素トノ關係ヲモ闡明スルノ要アリ、這般ノ事項ニ就テ研究スルハ即チ刑事社會學 *Kriminalsoziologie* ノ任ナリトス、是ヲ要スルニ刑事人類學ハ犯罪ノ內因ニ就テ、刑事社會學ハ其ノ外因ヲ究ムルニアリ

ソレ然リ、然リト雖、犯罪ヲ講究スル上ニ於テ最モ須要ナルハ犯人其者ニ對スル科學的研究ニアルヤ論ヲ俟タズ、如何ニ犯罪境遇論ヲ唱フル者ト雖、犯人ノ個性ニ缺陷弱點ノ存スルコトハ、到底非認スルヲ得ザルナリ、殊ニ常習犯人ニ於テ然リトナス、而シテ犯人ニ於ケル知能理性ノ低劣ガ必ズシモ社會的境遇及ビ教育ノ關係ノミニ因ルニ非ズシテ、其ノ生來ノ特性賦質ニ基クコトハ、境遇論者タルベール *Beier* キルンズ *Kern* 等モ認ムル所ナリトス

生物學上ノ見地ヨリ之ヲ觀ルニ、犯人ナルモノハ、隔世遺傳、病理的遺傳等ニヨリテ身心ニ變惡ヲ來タシ、社會ノ進化ニ隨伴スルコト能ハザルモノト謂テ可ナリ、吾人ガ此ノ社會ニ於テ生存ヲ全フスルニハ必ズヤ社會ニ適應ス

ベキ性質ヲ具有セザルベカラズ、然ルニ此性質ヲ完全ニ具ヘザル者ニアリテハ、社會ノ常規ニ從ヒテ生存ヲ全フスルコト能ハザルノ結果、勢ヒ常規ニ悖反シ非理ナル生存方法ニ出デザルヲ得ズ、是レ即チ犯罪行為ナリ、換言スレバ犯罪ハ犯罪人ガ社會ノ規約及ビ進化ニ伴フテ其ノ生存方法ヲ順應セシムトコト能ハザルガ爲メ生起スル所ノ結果ナリト云フベシ、而シテ其ノ原因ハ畢竟犯人ノ身心ニ缺陷アルガ爲メナリ、犯罪ノ發生ニ對シテ社會的狀況ノ密接ノ關係アルコトハ固ヨリ自明ノ理ナリト雖、犯人ニ健全ナル社會的生活ヲ全フスルコト能ハザル個人的原因ノ存スルコトヲ知ラバ、犯罪ヲ研究スルニ當リ勢ヒ犯人ノ生理的及ビ心理的状態ニ重キヲ置カザルヲ得ザルハ理ノ看易キ所トス

第三章 犯罪人ニ對スル處置

諸君ノ知ラル、ガ如ク、往時ニ於テハ犯人ヲ罰スルニハ其ノ行為ヲ尺度トナシ、刑罰ヲ以テ犯罪行為ニ對スル應報 *Vergeltung* ナリトセリ、然レドモ此ノ如キ思想ハ太古時代ニ於ケル復讐主義ヨリ轉化セシ客觀主義、現實主義ノ

見地ノ上ニ立ツモノニシテ、其ノ誤謬ナルコトハ明カナリ、蓋シ刑事人類學ノ勃興發達シテヨリ以來、犯人ノ身心ノ缺陷ニ基ヅク性格即チ犯罪性若クハ社會的危險性 Gemeingefährlichkeitヲ認ムル主觀主義、徵候主義ノ多數ノ法學者及ビ醫學者間ニ信認セラル、ニ至リシカバ、最早ヤ今日ニ於テハ、犯罪行為其者ヲ以テ決シテ刑罰ノ對象トスベキニ非ズ、必ズヤ犯人ヲ以テ刑罰ノ對象トナスベキコト固ヨリ論ヲ俟タザルナリ、往古ニアリテハ、君子ハ其罪ヲ憎ミテ其人ヲ憎マズト云ヒ、犯人ニ對シテ愛憐ノ情ヲ寄スルヲ法官爲政家ノ面目ナルガ如クニ思惟セシモ、今日ニ於テハ全ク其ノ反對ニ、君子ハ其人ヲ憎ミテ其罪ヲ憎マズト云ハザルヲ得ザルコト、ナレリ、即チ罰スベキモノハ犯行ニ非ズシテ犯人ナリ、Nicht die Tat, sondern der Täter ist zu bestrafenト云ヘル主義トナリ來レリ

サレバ、現代ニ於テ刑罰ノ目的トスル所ハ、犯罪行為ヨリモ寧ロ犯人其者ヲ罰スルニアリ、而シテ之ト同時ニ犯人ヲ公衆ヨリ隔離シテ社會的損害ノ發生ヲ豫防スルニアリ、是レ今日ノ刑法ノ主義ガ從來ノ應報主義、客觀主義ト全ク異ル所ナリ、固ヨリ今日ニ於テモ、犯人ノ遷善致過ヲ以テ刑ノ目的ノ一

トナスコトハ爭フベカラザル所ナレドモ、之ヲ醫學上ノ立場ヨリ觀レバ、既ニ前章論述セルガ如ク、犯人就中先天性犯人ニハ其ノ身心ノ狀態ニ於テ普通ノ人間ト異レル變質的徵候ヲ有セルヲ以テ、此ノ如キ者ヲ放任スルハ社會ノ爲メ甚ダ危險ナルガ故ニ、之ヲ一般社會ヨリ隔離シ且ツ其ノ行動ヲ制限スルノ必要ヨリ刑罰ニ處スルニテ、必ズシモ其ノ犯行ニ對スル應報トシテ刑罰ヲ加フルニ非ルナリ、彼等ノ人ヲ殺シ、家ニ放火シタル犯行ニ對シテ相應ノ刑罰ニ處シ、鐵窓ノ下ニ收容シテ肉體ニ苦痛ヲ與フルトモ、之ニヨリテ一旦殺サレタル者ノ蘇生スルヲ得ズ、一旦灰燼ニ歸シタル大厦ノ再ビ元ニ復スルコト能ハザル以上ハ畢竟スル所此ノ如キ損害ノ再ビ發生スルコトナキ様、犯人ヲ社會ヨリ隔離シ其ノ自由ヲ奪フヲ以テ刑罰ノ固有ナル目的ト見做サザルベカラズ而シテ之ト共ニ他ノ一面ニ於テハ、惡事ヲ行ヘバ此ノ如ク刑罰ニ處スルゾト他ノ人間ヲ威嚇シ、以テ將來ニ起ル所ノ損害危險ヲ豫防スルハ、固有ノ刑罰ニ附隨スル從屬ノ目的タラズンバ非ズ、是ヲ要スルニ今日ノ刑法ノ主觀主義ニ於テモ執拗ナル犯人ヲ嚴刑ニ處スルハ、畢竟社會ノ爲メニ危險ナル個人ノ行動ヲ制限スルノ必要ヨリ起リタ

ルニテ、犯人ニ不當ナル苦痛ヲ與フルハ、固ヨリ其ノ欲スル所ニアラズ、故ニ犯人ヲ社會ヨリ隔離スルト共ニ監獄ノ改良ニヨリテ其ノ人生ヲ全フセシメザルベカラズ、サレバ這般ノ立場ヨリ論ズレバ、生來身心ニ異常弱點アル犯人ヲ罰スルコトハ誠ニ已ムヲ得ザル所ニシテ、能フベクンバ、此ノ如キ人間ノ發生繁殖ヲ未然ニ豫防スルノ方法ヲ講ジ又タ一面ニ於テハ身心ノ缺陷ニ因スル犯罪行為ヲ表現セシメザル様適當ノ方法ヲ取ルヲ至當ノ件トナスベシ、然ラバ其方法如何、曰ク人種改善曰ク社會政策。

諸君、個人ノ身體及ビ精神上ノ素質ガ父母ノ遺傳ニ基ヅクコトハ既知ノ事實タリ、固ヨリ個人ノ氣質及ビ能力等ガ後天性ニ教育及ビ生活狀態等ノ周圍ノ境遇ニヨリテ多大ノ影響ヲ受クルコトハ爭フベカラザル所ナリト雖、而カモ他ノ一面ニ於テハ往古ヨリ上智ト下愚トハ移ラズト云ヘルガ如ク、生レナガラニシテ上智ノ人間ハソレ程教育ヲ受ケズトモ必ズ善クナリ、又タ下愚ノモノハ如何ニ教育シテモ一生馬鹿ニ終ルヲ常トス、又タ個人ガ其ノ受ケタル教育ヤ、其ノ置カレタル境遇ニヨリテ身心ノ性質ニ良好ノ感化ヲ受クルコトアリトスルモ、後天性ニ獲タル性質ガ子孫ニ遺傳セザルコト

ハ遺傳學上明白ナル所ナルガ故ニ、個人ノ身心ガ假令ヒ教育及ビ境遇等ニヨリテ良好トナルトモ、ソハ唯其ノ人一代ノミニ限ラレ、決シテ子孫ニ影響ヲ及ボスコトナシ、加之、此等ノ外界ノ要約ガ個人ノ一生涯ニ對シテ多大ノ感化ヲ及ボストシテモ、而カモ個人ノ特性ヲ根本的ヨリ變化スルモノニ非ズ、人間ノ品性ハ決シテ境遇ノ爲メニ變化スルコトアラザルナリ、個人ノ優劣運命ガ父母ノ生殖細胞ニヨリテ既ニ天先のニ決定セラルル以上ハ、低能又ハ惡性ノ遺傳ヲ受ケタル者ハ、ドコ迄モ低能者、惡性者タルヲ免レザルコト、恰モ蛙ノ子ノドコ迄モ蛙ノ子タルガ如シ、殊ニ先天性犯人ノ如キハ、生來道德的感覺ノ缺如セル生レナガラノ惡人ナルガ故ニ、如何ニ教育ヲ施シ、如何ニ境遇ヲ改メテモ、到底普通ノ人間ニ化スルヲ得ズ、サレバ此ノ如キ者ヲ社會ヨリ絶タントセバ、人種改善學ノ教ユル所ニ依リ、結婚ヲ禁ジ或ハ去勢ヲ施シテ、子孫ノ繁殖ヲ防ガザルベカラズ、又タ子孫ニ變質ヲ遺傳スル酒精中毒者、癡狂者及ビ微毒患者ノ如キモノニ對シテモ同様ノ方法ヲ施スベキナリ

執拗ニシテ到底度シ難キ危險性ノ犯人ニ至テハ、須ラク死刑ヲ斷行シ其生

命ヲ絶ツヲ得策トス、然ルニ死刑廢止論者ノ如キハ、死刑ヲ以テ古代ノ復讐主義ニ出ヅルモノナリトシ、其ノ誤レル見地ヨリ國家ハ被害者ニ代リテ復讐スルノ權利ナシト主張スルモノアルモ、此ノ如キハ甚ダ陳腐ナル愚説ニシテ、苟クモ近世刑事人類學ノ思想ヲ解シ、犯人ノ社會的危險性ノ由テ來ル理由ヲ知ル者ナラバ、今更死刑ヲ以テ復讐主義ニ出ヅルト云フガ如キ說ヲ容認スルモノアラザルベシ

抑モ社會及ビ國家ハ、人體ニ於ケルト同ジク、個人ナル細胞ヨリ成立スル統一の有機體ナリ、而シテ人體ノ一局部ニ於ケル細胞組織ガ腐敗壞疽ニ陥リテ全身ノ臟器ニ有害有毒ノ影響ヲ及ボス場合ニハ、是非共其局所組織ヲ除去セザルベカラザルガ如ク、國家社會ナル統一有機體ヲ形成スル個人ニシテ、他ノ多數ノ生存ヲ害シ、其ノ有機的統一ヲ破壞スルガ如キ場合ニハ、速ニ之ヲ艾除セザルベカラズ、是レ實ニ死刑ノ已ムヲ得ザル所ナリ、然ルニ死刑廢止論者ハ、死刑ノ代リニ長期ノ自由刑ニ處シ、兇暴ナル犯人ヲ社會ヨリ隔離スベキコトヲ說ケドモ、監獄ノ設備ハ必ズシモ絶對的ニ犯人ノ破獄ヲ防禦スル程ノ完全ヲ期スベカラズ、且ツ犯人ニ再犯ハ憂ヒアルコトヲ非定ス

ベカラザル以上ハ、斷ジテ死刑ニ處スル方、社會公安ヲ維持スル上ニ於テ得策ナリト認メザルヲ得ズ、然ルニ之ヲ目シテ酷刑惡刑ト稱スルガ如キハ恰モ局所ノ細胞ノミニ戀々トシテ全體ノ細胞ヲ忘レ、局所病竈ノ切除ヲ躊躇シテ患者ノ生命ヲ慮ラザル庸醫ト同様ナリト云フベシ、吾人ハ此ノ見地ヨリシテ最モ危險性ヲ有スル犯人ニ對シテハ死刑ニ處スルノ得策ニシテ且ツ必要ナルコトヲ唱フル者ナリ

上記ノ如キ方法ニヨリテ犯人ノ發生増殖ヲ防グト共ニ、他ノ一面ニ於テハ社會政策ヲ施シ犯罪ノ發生ヲ能フダケ豫防セザルベカラズ、就中經濟的方面ヨリ貧富ノ懸隔ヲ少クシ、生活ヲ成ルベク容易ナラシメテ貧窮ヲ豫防スルコトハ、社會政策上最モ必要ノ件トス

是ヲ要スルニ犯罪ハ個人的原因ト社會的原因トノ二者相待ツテ始メテ發生スルモノナレバ、兩種ノ原因ヲ絶ツニ非ズンバ、絶對的ニ犯罪ヲ絶滅スルコト能ハズ、然リト雖、出來得ル限リハ社會政策ニ依リテ犯罪ノ發生ヲ豫防スルノ法ヲ講ゼザルベカラズ、人種改善學ノ教ユル所ニ依リテ不良惡性ノ遺傳ヲ除去シ變質者ヲ根絶スルガ如キハ現代ノ社會ニ於テハ未ダ容易ニ

實行スベクモ非レバナリ

諸君、社會的危險性ヲ有スル犯人ニ對シテハ其ノ危險ナル行動ヲ相當ノ範圍内ニ制限スルガ爲メ、社會ヨリ隔離セザルベカラズト雖機會的犯人ノ如キモノニ對シテハ成ルベク其處置ヲ寬ニスルノ要アリ、蓋シ此種ノ犯人ハ前既ニ說キタルガ如ク、自ラ犯罪ノ機會ヲ作ルモノニ非ズシテ、却テ機會ノ爲メニ罪ヲ犯スモノナレバ、之ニ對シテ他ノ重惡ナル犯人同様ノ處置ヲ施シ、改善ニ必要ナル限度ヲ超エテ處罰スルガ如キハ徒ラニ不當ナル苦痛ヲ與フル措置ナレバナリ、罰金刑或ハ刑ノ執行猶豫ハ蓋シ這般ノ精神ニ基ツク

今日行ハル、所ノ刑法即チ新刑法ハ刑事人類學ニ基ヅケル主觀主義ノ上ニ立テルモノナリ、諸君ノ知ラル、ガ如ク、從來ノ舊刑法ハ、犯罪行爲ノ輕重ニ依リテ犯人ヲ罰シ、重罪、輕罪、違警罪ノ三種ヲ區別シタルガ、是レ畢竟客觀主義ニ立脚セルモノニシテ、即チ犯人其者ノ性格ヲ問フコトナク、其ノ行爲ヲ標準トシテ罪ニ輕重ヲ別チタルモノナリ、然レドモ此ノ如キハ近世ノ科學的思想ニ適セズ、刑事人類學上ヨリ論ズレバ、罰スベキモノハ犯人其者ニ

シテ其ノ行爲ニ非ズ、而シテ犯人ヲ罰スル精神モ之ニ不當ナル苦痛ヲ與フルガ爲メニ非ズシテ、犯人ヲ社會ヨリ隔離シ其行動ヲ制限スルニアリ、サレバ犯人ヲ罰スルニ當リテハ、須ラク其ノ個人性ニ注目シ、其性格ノ如何ニヨリテ刑ノ適用ヲ定メザルベカラズ、犯罪行爲ノミヲ標準トシテ刑ヲ加フベカラザルナリ、殺人犯、竊盜犯等各箇犯人ノ行爲ハ相同ジト雖、其ノ性格ニ至テハ非常ナル差等アリ、サレバ各箇犯人ノ性格ニ應ジテ刑罰ノ裁量ヲナスコトハ之ヲ刑罰ノ精神ヨリ見テモ至當ノ措置ト謂ハザルヲ得ズ、是レ新刑法ニ於テ重罪、輕罪ノ區別ヲ廢シ、刑ノ裁量範圍ヲ擴大シタル所以ナリ、等シク殺人犯ト雖、其犯人ノ性格及ビ動機ニ從ツテ懲役三年ノ輕刑ヨリ死刑ノ最重刑ニ及ビ、等シク竊盜犯ト雖一ヶ月ノ短キヨリ十ヶ年ノ長キニ互ル刑ニ處スル所以ノモノハ、刑事人類學ノ思想ヲ根本トセル主觀主義、徵候主義ニ基ツクモノナリ、往時ノ刑法ハ客觀的ニ犯罪行爲ヲ分類シテ輕重ノ別ヲ置キ、殺人犯ニ對シテハ必ズ死刑若クハ無期徒刑ノ最重刑ニ處シ、竊盜犯ニ對シテハ二ヶ月乃至四ヶ年ノ輕刑ニ處スル等犯罪分類ノ方針ニ依リテ刑ヲ定メタリシモ、今日ノ新刑法ニ在リテハ主觀的ニ犯人ヲ分類シテ刑ノ適用

60
990

終

